茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

2019（令和元）年度
茨城大学 社会連携センター 年報

令和２年３月

2019年度　社会連携センターの活動

茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

1．社会連携センターについて

2．社会連携に関する新しい取り組み
（1）リカレント教育プログラム　【資料1】
（2）台風19号災害に対する全学的な対応

3．自治体・地域等との連携
（1）那珂市と大学との連携協定を締結　【資料2】
（2）各種プロジェクトの支援
①「戦略的地域連携プロジェクト」　【資料3】
②「地域連携・地域研究プロジェクト　【資料4】
（3）学生の地域活動支援
①「学生地域参画プロジェクト」　【資料5】
②学生地域活動発表会「はばたく！茨大生」　【資料6】
③社会連携コーディネーター
④学生パートナー
（4）いばらき創業10,000社プロジェクト（茨城県からの受託事業）　【資料7】～【資料11】
（5）さまざまな連携事業

4．企業・産業界との連携
（1）茨城産業会議との連携事業　【資料12】
（2）企業等との連携・交流・協働　【資料13】

5．さまざまな事業の運営
（1）COCプラス事業
（2）「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」
（3）社会教育・生涯学習事業　【資料14】

6．社会連携活動の充実
（1）意見交換と点検評価　【資料15】～【資料17】
（2）自治体等学外からの相談への対応
（3）社会連携センターからの情報発信

7．社会連携センターの方向性

1．社会連携センターについて

茨城大学 Ibaraki University 創立70周年

◆スローガン　「交流　連携　未来へつなぐ」

社会連携センターは、上記のスローガンを掲げ、大学の持つ多様な資源を活用し、社会のさまざまな方々と協働して、社会の新たな価値創造に向けた活動を推進しています

◆基本方針

① 茨城大学における学内外への「窓口」となり、大学とさまざまなアクターの方々とをつなぐ「プラットホーム」の役割を果たすこと

② 地域の課題を茨城大学の教育、研究、協働へつなげること

◆目指すもの

・大学と社会との「窓口」機能

・自治体、地域、地元企業との対話、交流、協働

・地域で活動するさまざまな方々と課題に見合ったネットワークを構築すること

2019年度の社連センター紹介チラシ1

◆社会連携センターの組織について

・2019年度は、下記がセンター長・副センター長・部門長として職務にあたりました

社会連携センター長　西野由希子人文社会科学部教授

副センター長（４名）　安江健農学部教授（社会教育部門長）、永木康博（研究・社会連部長）、渋谷敦司人文社会科学部教授（地域連携部門長）、木村成伸工学部教授

講師　桐原武文（リカレント教育等を担当）

社会連携コーディネーター（1人）

①学外からのさまざまな相談や要望を聞き取り、学内の教員や組織につなぐ

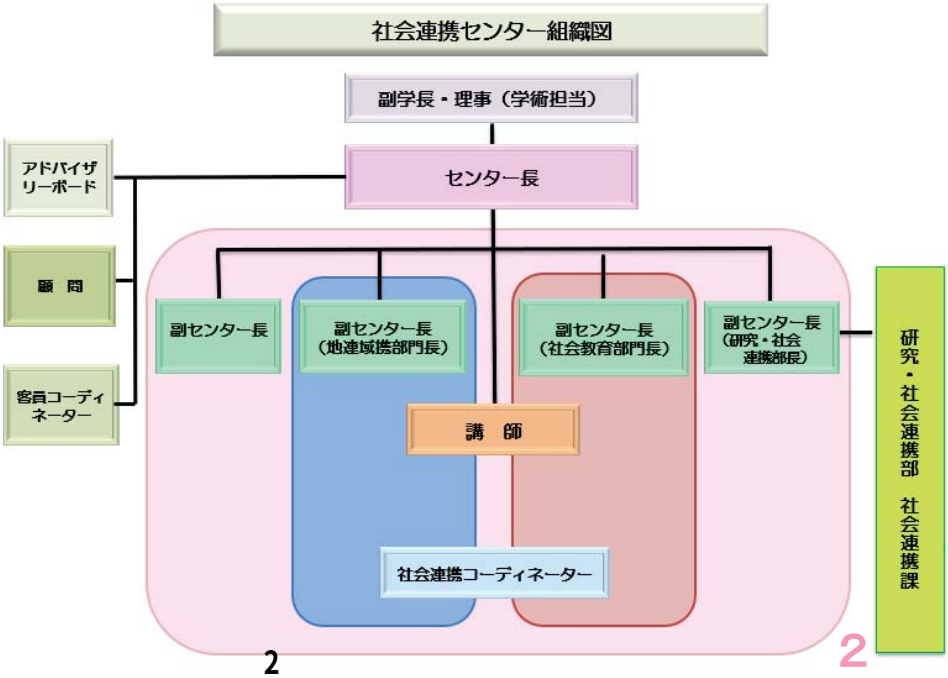
②「学生地域参画プロジェクト」等で活動する学生たちをサポートする

③社会連携センターの情報を発信する

等の業務を担当

学生パートナー（15人）

平成29年度から社会連携センターの企画・運営に参画する「学生パートナー」を募っており、「学生地域参画プロジェクト」の情報発信などを行いました



2

2．社会連携に関する新しい取り組み

（1）リカレント教育プログラム　　2019年度より「カスタムコース」を開始

茨城大学の社会人向けの「リカレント教育プログラム」は下記「3コース」で構成

社会人の学び直しのニーズに応えるとともに、地域のみなさまとの意見交換を重ねながら人材育成に取り組み、地域創生に貢献することをめざしています　　⇒　【資料1】

★誰でも１科目単位で自由に学べる

オープンコース（公開講座・公開授業）

★さまざまな専門分野のエッセンスを複数の科目を受講して学ぶ　専門コース

★企業や自治体、団体等の要望に応じた人材育成のプログラムをカスタマイズして提供する　カスタムコース

★専門コース（2019年度）　「茨城エコ・カレッジ2019（体験コース）」　など

環境問題に興味を持ち、環境保全の活動を進んで実践するリーダーを養成するためのコース　（主催：茨城県、茨城大学　　協力：茨城県地域気候変動適応センター）

3

★　カスタムコース（2019年度）

- 関彰商事（平成31年4月～）
  - ・・・　前期 16名、後期 27名
- サザコーヒー（令和元年10月～）
  - ・・・　8名
- 那珂市（令和元年10月～）
  - ・・・　2名

◎開講式、受講者どうしの意見交換会などを試行的に実施しました

◎「意見交換」の場の設定
「いばらき社会人リカレント教育フォーラム」等で「社会人リカレント教育」に関する事例等紹介や意見交換を行い、プログラムに反映させながら進めています

◆令和2年2月27日（木）　水戸プラザホテルにて
15：30～17：45「いばらき社会人リカレント教育フォーラム」
18：00～「イブニングサロン（情報交換会）」
を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大への警戒のため、今回は中止しました

4

（2）台風19号災害に対する全学的な対応

・三村信男学長を座長とする令和元年台風 19 号災害支援チーム

茨城大学は、発災直後に上記チームをたちあげ、学生・教職員による「ボランティア派遣」などを行いました
社会連携センターは自治体との連絡等を担当しました

また、学内では、研究・産学官連携機構が研究費を支援する下記「調査団」が結成され、12月に第1回の発表会が開催されるなど、研究が進められています

・「令和元年度台風19号災害調査団」　８つの研究グループ

①被災過程解明グループ　　②農業・生態系グループ

③情報伝達・避難行動グループ　　④住民ケア支援グループ

⑤文化財レスキューグループ

⑥台風19号茨城水害における災害支援に対する自治体の情報発信と報道量の関係
ー茨城県における自治体の「受援力」強化のために

⑦茨城県における洪水に対する地域強靱化の提案

⑧台風19号による県内中小企業の被害状況を踏まえた事業継続計画（BCP）に関する調査研究

5

3．自治体・地域等との連携

（1）那珂市と大学との連携協定を締結　　10月16日（水）に包括連携協定を結びました
⇘　【資料2】

（2）各種プロジェクトの支援

①「戦略的地域連携プロジェクト」　　⇒　【資料3】
「教員＋自治体」が協働で進める研究を支援しています

（令和元年度は 12件）

※平成30年度及びそれ以前の報告書は社会連携センターHPより、ダウンロードできます

◆年間のスケジュール

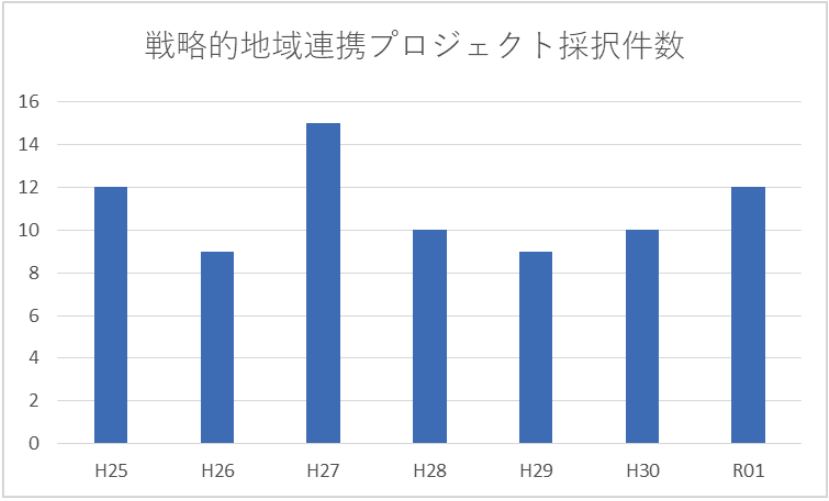
自治体から、協働で取り組む希望のテーマ等があれば、（できるだけ3月中までに）相談いただき、教員等をご紹介

⇒自治体と教員等で内容等詳細について協議（申請書の準備）

⇒4月（～5月初め）に申請期間

⇒審査、採否を決定

⇒研究等の実施



※自治体側にも予算その他をご用意いただき、「協働」で研究・連携活動を進めています

6

3．自治体・地域等との連携

（2）各種プロジェクトの支援

②「地域連携・地域研究プロジェクト」　⇒　【資料4】

「地域研究」の推進を目的に、大学と連携協定を結んでいる団体（スポーツチーム等）との研究や活動、または、複数自治体との間で行う研究や活動等に関し、「地域連携・地域研究プロジェクト」を募集・採択して、支援を行っています

（令和元年度は3件）

○水戸ホーリーホック　『連携協定イベント「オール茨城大学招待デー」の強化と実施』

○人文社会科学部地域史シンポジウム「スポーツの世界史ー茨城・アジア・世界」
（2月16日（日）に開催）

○「人文社会科学部市民共創教育研究センター」との協働
「提携自治体（鹿嶋市）共催シンポジウムの実施」
（2月20日（木）に開催）

3．自治体・地域等との連携

（3）学生の地域活動支援

①「学生地域参画プロジェクト」（令和元年度　通年11件、スタートアップ版：5件）

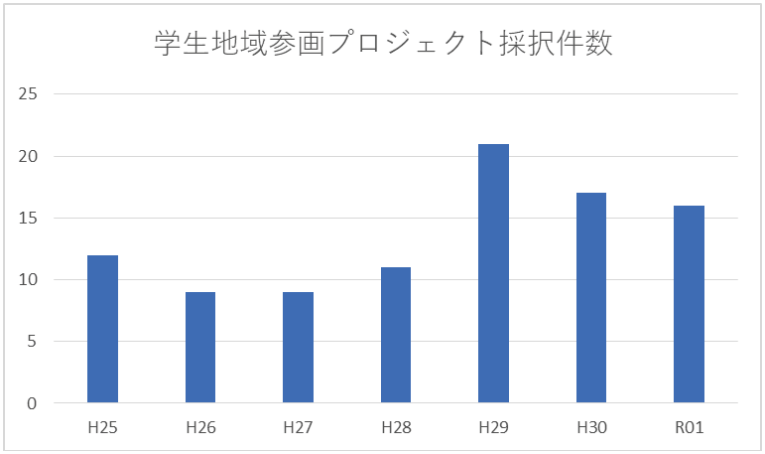
⇒　【資料5】

学生が自主的に地域で行う活動を「学生地域参画プロジェクト」として選定し、予算の補助や、活動に関し、コーディネーターによる助言等を行っています

年度末に、発表会での発表と活動報告の提出を行い、『報告書』を作成しています

※これまでの「報告書」は社会連携センターHPからダウンロードできます

学生たちが作成したリーフレットや冊子



3．自治体・地域等との連携

（3）学生の地域活動支援

②＜学生地域活動発表会「はばたく！茨大生」＞の実施　　⇒　【資料6】

年２回の発表会を実施しています

春：学生から学生たち（特に新入生）への活動発表〔全学教育機構の主催で開催〕

秋（冬）：学生から学外の方たちへ

2019年度は、2020年3月3日（火）に活動発表会を予定していましたが、新型コロナウイルスへの対応のため発表会は中止しました
学生たちから提出された資料等を『学生地域参画プロジェクト2019年度報告書』に掲載し、HPで公開する予定です

③社会連携コーディネーターが地域活動を志す学生たちの相談にのるなど、支援しています

④社会連携センターの企画・運営に関わる「学生パートナー」

2019年度は15名が登録し、「学生地域参画プロジェクト」のPR活動としてツイッターを使った各プロジェクトの活動紹介に取り組んだり、「茨城県学生ビジネスプランコンテスト」等、社会連携センターの事業の運営に協力したりしました

9

3．自治体・地域等との連携

（4）「いばらき創業10,000社プロジェクト」（茨城県からの委託事業）

⇒　【資料7】～【資料11】

- 3年目の2019年度は、本学を含む県内４大学等での創業講座等を実施
  本学でも「起業セミナー」を開催しました（8月22日（木））
- 「茨城県　学生ビジネスプランコンテスト」（11月30日（土））を実施しました

1次審査を通過した、大学生・高校生、8グループがプレゼンテーションを行い、茨城大学学長賞など各賞が授与されました

令和元年度「ビジネスプランコンテスト2019」

- 12月21日（土）に応募者のうち、希望者に対して「フォローアップ」を行い、プランの長所や課題、今後に向けた助言等を行いました

（5）さまざまな連携事業

- 大学行事等での出展　　茨苑祭での「物産展」、入学式・卒業式等でのPR等

連携協定を結んでいる自治体や企業に、出展や参加をいただき、行事をもりあげていただくとともに、PR活動に利用いただいています
2019年度卒業式は新型コロナウイルスの影響で、全学の式典が行われないなど形式が変更になるため、出展もお願いできなくなりました

10

4．企業・産業界との連携

（1）茨城産業会議との連携事業　　⇒　【資料12】

・茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会の開催
（11月5日（火））
『農業をめぐる「技術革新(イノベーション)」と
茨城の地域活性化』　をテーマに、基調講演とパネル
ディスカッションを行いました
参加者には非常に 好評をいただきました

・経営者協会「いばらき塾」　　実施に協力（9月～11月）
「歴史」「人物」「食」をテーマにした講義、及び「現地視察」
により「いばらき」を学ぶ研修会：昨年度に引き続き、今年度も
テーマの設定や講師の紹介などに協力しました

令和元年度 「三者連携講演会」

（2）企業等との連携・交流・協働

・インターンシップの受け入れ、茨大生の地元就職
＝「COCプラス事業」としてキャリアセンターと連携して進めています

・社会連携CD（コーディネーター）・産学官連携ＣＤ・ＵＲＡの連携、協力

・「いばらき産学官金連携コーディネーター交流リーグ」　（7月25日（木））　⇒　【資料13】

SDGｓに関わる共同研究の可能性などを話し合いました
秋以降、台風19号災害調査団の研究グループ「事業継続計画（BCP)」に関する研究」への
参加を呼び掛けるなど、研究プロジェクトとしての展開を探っています

・茨城新聞社との連携　　図書館に全国の地方紙が読める「新聞マルシェ」を設置しています

11

5．さまざまな事業の運営

（1）COCプラス事業

・インターンシップ、「茨城学」「地域共創PBL」の実施
2019年度が最終年度となり、12月14日（土）に活動を総括
するシンポジウムを開催しました

（2）「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」

○【県民向け】講座「いばらきカレッジ」を2月1日（土）（茨城高
専）に実施
2月29日（土）（県立医療大学）での実施予定は新型コロナウイルスの影響で中止となりました
テーマ「テクノロジーの視点から考えるいばらきの未来」

○【学生向け】　SDGsについて理解を深めるためのワークショップを実施

○【教職員向け】視覚障害学生支援のための研修会を実施

（3）社会教育・生涯学習事業

・全国、県内の生涯学習関係団体、県内生涯学習センター等と協力しています

・9月9日（月）・10日（火）　「第41回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会」を
本学で開催しました

・「いばらき子ども大学」への協力　合同開講式（6月8日（土））を本学で行うなど、
事業に協力しています　　⇒　【資料14】

12

6．社会連携活動の充実

（1）意見交換と点検評価

・連携先自治体との意見交換会（1月21日（火））　⇒　【資料15】

本学および農学部・人文社会科学部と連携協定を結んでいる自治体の「実務担当者」との意見交換会を実施しました
全体での開会のあと、「地域連携」「産学連携」「生涯学習・リカレント教育」のテーマで4つのグループに分かれて意見交換を行いました
率直な意見交換ができ、参加者にも好評でした
現在、各自治体との連携実態の整理等を行っています

・顧問の方との意見交換　⇒　【資料16】

顧問の方たちからも社会連携センターの事業への助言等をいただいています

・アドバイザリーボード会議　⇒　【資料17】

3月10日（火）に会議を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響により会合を見送り、2019年度分は書面にてご意見・ご助言をいただく形になりました

（2）自治体等学外からの相談への対応

社会連携コーディネーターが自治体等学外からの相談に対応し、大学の「窓口」としての役割を果たすべく努力しています

（3）社会連携センターからの情報発信

13

メールマガジン「社会連携センターニュース」を毎月1回送信しています
Facebook、ツイッター、HPなどを活用した情報発信を行いました

7. 社会連携センターの方向性

社会連携センターは、大学と社会・地域との「窓口」として引き続き役割を果たしていきますが、令和2年度は、以下の３つに重点を置くことになると考えています

①　リカレント教育の推進

2019年4月に新しくスタートした「茨城大学リカレント教育」は「カスタムコース」を中心に、地域や産業界、また文科省からも注目をいただいています
今後はさらに提供科目や内容を充実させていくとともに、「いばらき社会人リカレント教育懇談会」等で意見交換を行い、地域のニーズに応えていけるよう努めます

②　学生・教員の地域活動の支援

「学生地域参画プロジェクト」「戦略的地域連携プロジェクト」「地域連携・地域研究プロジェクト」などを中心に、学生や教員の地域活動、協働事業の支援を行っていきます

③　地域の企業・自治体等とのネットワークの推進

研究・産学官連携機構をはじめとして、学内各部局・諸機関と連携・協働しながら、大学と地域の企業・自治体等とのネットワークによる活動を推進します

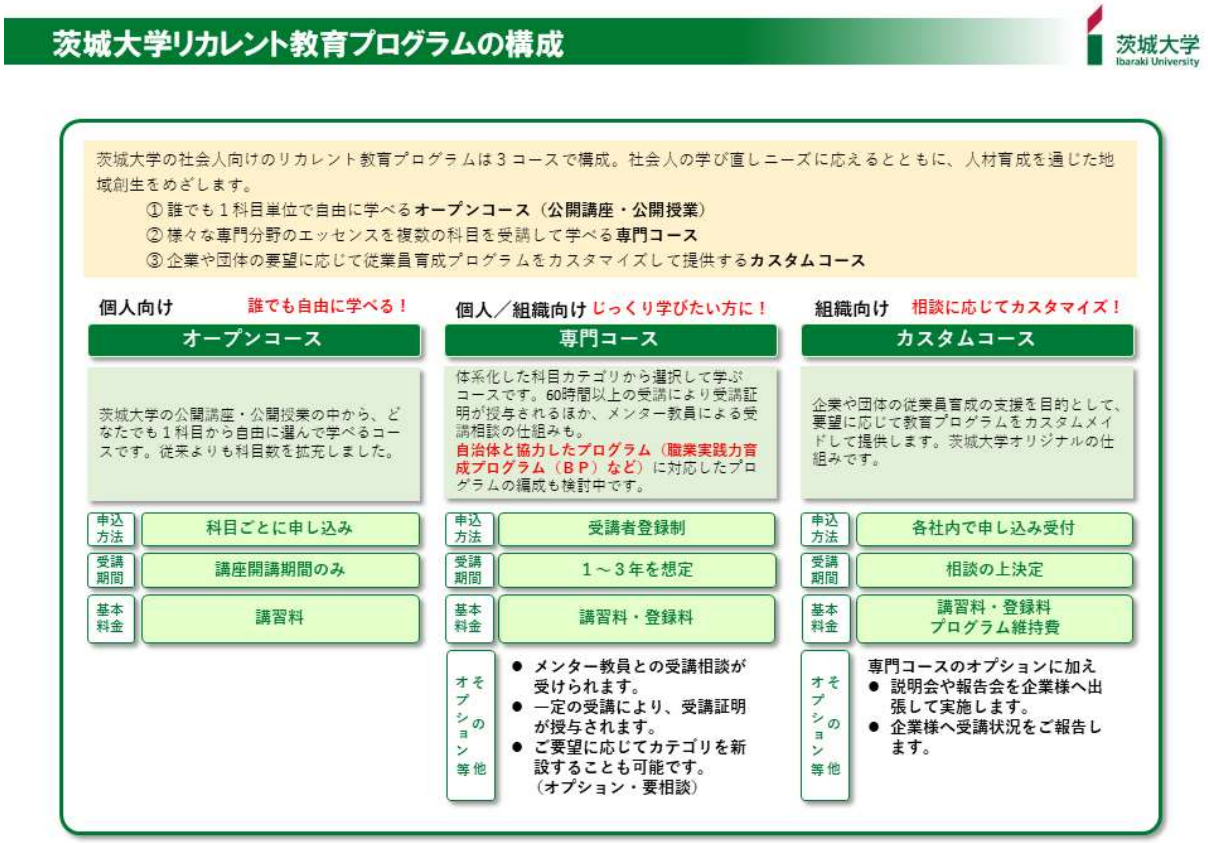
14

資料 1

茨城大学リカレント教育プログラム

令和元年度から、これまでの公開講座・公開授業を再編し、３コースで構成する「茨城大学リカレント教育プログラム」をスタート。

①オープンコース　　受けたい講座を１科目から自由に選べる（従来型）。
②専門コース　　専門分野のエッセンスを複数の科目から受講し体系的に学べる。
③カスタムコース　　企業や団体の要望に応じてカスタマイズしたプログラムから受講できる。



令和元年度実績

オープンコース

開講講座：40 講座　　受講者総数：451 名

専門コース

①茨城エコ・カレッジ 2019（茨城県からの委託事業）　6/29～9/7
受講者数：103 名（うち高校生 37 名）　59 名が修了
　環境保全リーダーの養成を目的とし、茨城県と茨城大学が連携し、茨城大学教員による講義と環境団体によるフィールドワークでの体験で構成した環境保全リーダー養成プログラムを開講。

②中学生からの美術アカデミー
受講者数：中学生 5 名
　中学生向けに開講された「美術」の基礎力養成講座。整理されたデッサンプログラムに取り組むことで「美術的なモノの見方」を修養することを目的として開講。

カスタムコース

参加団体数：3 団体　　受講者総数：53 名

①関彰商事株式会社「セキショウリカレント教育プログラム」

受講者数：前期 16 名　後期 27 名

4/10 前期開講式、9/26 前期成果報告会・後期開講式を開催。

②株式会社サザコーヒー「SAZA campus cafe program」

受講者数：後期 8 名

9/26 後期開講式を開催

③那珂市「那珂市リカレント教育プログラム」

10/16 後期開講式を開催

その他、9/26 には参加団体による「リカレント教育プログラム受講者交流会」を開催した。

いばらき社会人リカレント教育懇談会

産学官が連携し、茨城県の社会人教育について意見交換を行う場として、令和元年 2 月 2 日に発足。12 月 19 日には、第 1 回いばらき社会人リカレント教育懇談会実務担当者会議を開催し、各団体及び茨城大学の取り組みの事例を紹介。

2019年度 前期

公開講座 受講生募集

茨城大学 Ibaraki University
2019年、茨城大学は創立70周年

お申し込み方法

ホームページ 下記アドレスにアクセスし、専用フォームからお申し込みください。

http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp/

FAX・郵送・持参

「公開講座・公開授業申込書」と記入の上、
①お名前（ふりがな）、②郵便番号、③ご住所、④お電話番号（日中、連絡のつく電話）、⑤携帯電話番号、⑥メールアドレス、⑦受講希望の講座番号及び講座・授業名を明記し、茨城大学社会連携センター宛にお申し込みください。
（※電話での受付はしておりません。）

※公開講座とは、本学が所有する教育や研究の成果を地域の皆様に還元することを目的に開講する講座のことです。

TEL.029-228-8413
FAX.029-228-8089
syougai@ml.ibaraki.ac.jp

茨城大学社会連携センター　公開講座　検索

1 公開講座（有料）

講座①　続・変体仮名を読む

水戸 中級者

日程　4/10(水)・17(水)・24(水)・5/15(水)・22(水)・29(水)・6/5(水)・12(水)・19(水)・26(水)・7/3(水)・10(水)・17(水)・7/24(水)・31(水)

開講時間　10:00 ～ 11:30

講義概要
変体仮名とは明治中期まで用いられていた平仮名のことです。本講座では、江戸期の変体仮名を判読できるようになった方が、漢字のくずし字も少しずつ覚えられるよう、漢字仮名交じりの文章を読んでいきます。（今期は江戸期写本の『徒然草』を中心に読む予定です。内容の解説よりも文字の形に対する解説に重点を置きます。）

備　考
江戸期の変体仮名の判読能力をお持ちの方に受講をおすすめします。（初心者の方でも受講可能ですが、変体仮名の解説はあまりしませんので、御自身で勉強して頂くことになります。）また、開講日程を変更する場合があります。（1 ～ 2 回程度、開講日が減る可能性があります。）

教科書等　必要に応じて資料、ワークシートなどを配布します。

担当講師　人文社会科学部 教授　櫻井 豪人
開講場所　社会連携センター　3階研修室
募集人数　30 名
回　数　15 回
受講対象　社会人
講 習 料　9,720 円
申込期限　4/5（金）

講座②　はじめてのプログラミング～「スクラッチ」の世界を楽しもう～

水戸 初心者

日程　4/21(日)・5/12(日)・26(日)・6/9(日)・23(日)・7/14(日)・28(日)・8/4(日)

開講時間　11:20 ～ 12:50

講義概要
2020 年から小学校で「プログラミング」が必修化されます。「プログラミング」能力が、社会で教養となりつつあります。これから「プログラミング」を始めようとする人のための講座です。「スクラッチ」というビジュアルプログラミング言語を使って「プログラミング」を楽しみましょう。「スクラッチ」はブロックを組み合わせて、ゲーム、音楽を簡単に作ることができます。「スクラッチ」は、NHK の番組「Why!? プログラミング」でも取りあげられています。

教科書等　オリジナルテキストを配布します。

担当講師　名誉教授　仙波 一郎
開講場所　図書館 3階セミナールーム
募集人数　15 名（組）
回　数　8 回
受講対象　小中学生・社会人（小学生は 4 年生以上で保護者同伴）
講 習 料　7,560 円
申込期限　4/12（金）

講座③　英語多読を楽しもう 3 ～初心者のかたもバリバリ読んでいるかたもぜひご一緒に～

水戸 初心者・中級者

日程　5/21(火)・6/4(火)・18(火)・7/2(火)

開講時間　18:00 ～ 19:30

講義概要
簡単な英語の絵本からスタートして、だんだんレベルアップして英語の本を読むことを楽しめたら、とは思いませんか。図書館も利用しながら簡単な絵本から始めて、一緒に本を読む仲間やガイドするコーチ役（講師）とともに、英語の本を読んでみましょう。英語の多読を始めてみたい方のための 4 回コースです。すでに趣味として自分なりに英語多読を行っている方、なんとか試してみたがなかなか長続きしない方、などのご参加も大歓迎いたします。

備　考
英語の音声に触れていただくために、授業時間内にオンライン上にある音声素材を聴いていただくことがあります。可能であれば、ネットにつながるスマホやタブレット、そしてヘッドホンをご持参ください。

教科書等　「めざせ！ 100 万語読書記録手帳」（SSS 英語学習法研究会）コスモピア　648 円（税込）

担当講師　全学教育機構 准教授　上田　敦子
開講場所　共通教育棟 1 号館　2 階 2A 教室　図書館　共通学習室
募集人数　15 名
回　数　4 回
受講対象　高校生・大学生・社会人
講 習 料　6,480 円
申込期限　5/10（金）

講座④　心を育てるグループワーク～楽しむことから始めよう！～

水戸 初心者・中級者

日程　8/3(土)・4(日)

開講時間　10:00 ～ 17:00（休憩 12:00 ～ 13:00）

講義概要
学級集団などで実践できるグループワークについて体験的に学びます。構成的グループ・エンカウンターやインプロなどの従来行われてきた各種の活動を、かかわる活動・理解する活動・表現する活動の 3 つの活動に集約・再編し、新たな枠組みの元に心を育てるグループワークとして提案します。これにより、心を総合的に育てると共に豊かな人間関係を築くことができます。体験的な演習に加えて、解説・講義も行います。小学校から大学に至る教育機関の他各種相談機関などでも活用できます。

備　考
軽い運動を含みます。動きやすい服装でご参加ください（スカート、ハイヒール等不可）。

教科書等　なし

担当講師　教育学研究科 教授　正保 春彦
開講場所　社会連携センター　3階研修室
募集人数　30 名
回　数　2 回
受講対象　社会人
講 習 料　7,560 円
申込期限　7/26（金）

講座⑤　インプロ・ゲームと表現

水戸 初心者・中級者

日程　9/15(日)・16(月・祝)

開講時間　10:00 ～ 17:00（休憩 12:00 ～ 13:00）
講義概要
インプロ（即興演劇）は今、現在の瞬間に生き、状況に柔軟に対応していく活動です。この講座では、まず、集団場面で楽しくメンバーとかかわり合いながら人間関係を形成したり、想像力や創造力を高めていくゲームを体験していきます。その上で、さまざまなシーン作りを体験しながら、人間にとって「即興」という活動が持つ意味について考えていきます。
備　考
軽い運動を含みます。動きやすい服装でご参加ください（スカート、ハイヒール等不可）。
教科書等　なし

担当講師　教育学研究科
教授　正保 春彦
インプロ・ワークス
代表　絹川 友梨
開講場所　社会連携センター　3階研修室
募集人数　30 名
回　数　2 回
受講対象　社会人
講 習 料　7,560 円
申込期限　9/6（金）

講座⑥　ダイズをつくろう！食べよう！加工しよう！

阿見 初心者

日程　6/21(金)・7/19(金)・10/25(金)・11/15(金)・12/6(金)

開講時間　10:00 ～ 12:00
講義概要
私たちの食卓に欠かせない大豆。この講座では、大学農場において、いろいろな大豆の品種を栽培します。また、みなさんで栽培した大豆をもちいて、枝豆や大豆の利用と豆腐加工の体験をおこないます。実習とあわせて講義では、大豆の品種や栽培の基本、大豆の健康効果、大豆加工の実際について講義します。
教科書等　なし

担当講師　農学部
教授　小松崎 将一
教授　白岩 雅和
教授　宮口 右二
准教授　中村 彰宏
技術職員　高田 圭太
開講場所　農学部附属国際フィールド農学センター
募集人数　20 名
回　数　5 回
受講対象　社会人
講 習 料　7,560 円
申込期限　6/14（金）

2 公開講座（無料）

講座⑦　「老後」の生活設計～年金、相続、そして終活～

水戸 初心者

日程　7/13(土)

開講時間　13:30 ～ 15:00
講義概要
老後の生活を考えるうえで、年金制度を理解することは非常に大切です。また最近は「老いへの支度」として、相続や終活への関心が高まっています。知っておきたい年金の知識、相続や終活のポイントについて、茨城県金融広報委員会（事務局日本銀行水戸事務所）が派遣する金融広報アドバイザーが分かり易くご説明します。
教科書等　なし

担当講師　茨城県金融広報委員会
金融広報アドバイザー
山口 京子
開講場所　社会連携センター　3階研修室
募集人数　30 名
回　数　1 回
受講対象　社会人
講 習 料　無料
申込期限　7/10（水）

講座⑧　パーキンソン病の療養生活～パーキンソン病と共に生きる～

水戸 初心者

日程　7/15(月・祝)

開講時間　13:30 ～ 16:30
講義概要
パーキンソン病は特徴的な運動障害を呈する神経変性疾患であり、現時点では抜本的治療法はない。しかし症状をコントロールする薬剤は多数開発されており、これらの薬剤を駆使することにより長期間にわたって症状を制御できるようになっている。本講座はパーキンソン病の症状、診断、治療、療養上の注意点などを分かりやすく解説し、患者さん、ご家族、その他の介護者の支援をすることを目的としている。同時に、講座終了後、自由な質疑応答の時間を設け、日々の療養生活の悩みになるべく答えたいと考えている。
備　考
車イスをご利用の方は、その旨ご連絡ください。
教科書等　なし

担当講師　保健管理センター
教授　渡邊 雅彦
開講場所　理学部 G 棟　第 8 講義室
募集人数　50 名
回　数　1 回
受講対象　高校生・大学生・社会人
講 習 料　無料
申込期限　7/10（水）

講座⑨　茨城大学で学ぶ留学生と考える「日本」

水戸 初心者

日程　7/27(土)

開講時間　10:00 ～ 12:00
講義概要
茨城大学の日本語研修コースレベル 4（日本語中級後半レベル）を履修する留学生が、留学生や留学生支援をする人達にインタビューを行いました。公開講座では、インタビューを通して彼らが考えたい・話し合いたいと思ったことを共有し、それをもとに「ソトの目」からみた日本について考えたいと思います。
教科書等　なし

担当講師　全学教育機構
講師　瀬尾 匡輝
教授　八若 壽美子
開講場所　社会連携センター　3階研修室
募集人数　15 名
回　数　1 回
受講対象　高校生・大学生・社会人
講 習 料　無料
申込期限　7/24（水）

講座⑩　大学農場で学ぶ農業生産工程管理(GAP)の実際

阿見 初心者

日程　6/7(金)

開講時間　13:30 ～ 15:30
講義概要
GAP（Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理）とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のことです。この講座では GAP 認証を受けた茨城大学農場において GAP の取り組みの実際や意義についてわかりやすく解説します。また、現地見学では、安全な農産物生産の実際の場面を紹介します。
教科書等　なし

担当講師　農学部
教授　小松崎 将一
技術職員　高田 圭太
開講場所　農学部附属国際フィールド農学センター
募集人数　30 名
回　数　1 回
受講対象　社会人
講 習 料　無料
申込期限　6/5（水）

講座⑪　ゼロからはじめるヤギ飼育講座 ～あなたも「ペーター」をめざしてみませんか～

阿見 初心者

日程　6/29(土)

開講時間　13:00 ～ 17:00（休憩 14:55 ～ 15:05）
（講義 13:00 ～ 14:55・実技 15:05 ～ 17:00）
講義概要
近年、除草対策やふれあい動物として、ヤギを飼い始めたり飼いたいと考える方が増えています。本公開講座では、ヤギという動物を知ってもらうための講義と、実際に飼うために必要な飼育管理技術（おもにヤギの取扱いや病気の予防、爪切りの仕方など）について、実習形式で学びます。
備　考
実際にヤギに触れる実習を含みますので、汚れても良い服装、動きやすい運動靴、作業用手袋（軍手など）でご参加ください。
なお、本講座は過去開講分と同じ内容ですので、以前の参加者はご遠慮ください。
教科書等　なし

担当講師　農学部
教授　安江　健
開講場所　農学部附属国際フィールド農学センター内講義室・ヤギ飼育場
募集人数　10 名
回　数　1 回
受講対象　高校生・大学生・社会人
講 習 料　無料
申込期限　6/26（水）

※各講座・授業の日程等に変更が生じる場合があります。
※科目により申込期限が異なりますのでご注意ください。
※受講希望者数が少ない場合、中止になることがあります。
※講習料は、期間中に変更される場合があります。
※各講座・授業で使用するテキスト・教材は別途負担が必要になる場合があります。
※授業内容等については、社会連携センター Web サイトにて確認することができます。
※先着順の受付になります。（お申し込み後のキャンセルは受け付けません。）
※受講証と振込依頼書（有料講座・公開授業）を、申込後に郵送します。
※メールで連絡する場合がありますので、下記のドメインを受信可能にしてください。
@vc.ibaraki.ac.jp

3 公開授業

申込期限　2019年4月3日（水）

- 公開授業とは、学生対象の正規授業を開放し、学生と一緒に大学の授業を受講していただくものです。
- 講義概要、教科書等の詳細・情報については、茨城大学シラバス検索システムで確認してください。
  茨城大学シラバス検索システム（https://idc.ibaraki.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx）
- 教科書は下記販売所で購入できます。
  2019年4月8日（月）～4月26日（金）　10:00～17:00　水戸キャンパス　茨苑会館1階　談話室
  日立キャンパス　学生生活協同組合購買　書籍部
  阿見キャンパス　学生生活協同組合購買　書籍部

授業時間

1講時▶8:40～10:10　2講時▶10:20～11:50　3講時▶12:40～14:10　4講時▶14:20～15:50　5講時▶16:00～17:30

講座101　中国文学史　水戸

日程	4/12(金)・19(金)・26(金)・5/10(金)・17(金)・24(金)・31(金)・6/7(金)・14(金)・21(金)・28(金)・7/5(金)・12(金)・19(金)・26(金)							
時間	金曜日　2講時　10:20～11:50	場所	人文社会科学部　A208					
担当講師	人文社会科学部　教授　西野 由希子	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円	

講座201　英米文学特講Ⅰ　※は振替授業　水戸

日程	4/15(月)・22(月)・5/8(水)※・13(月)・20(月)・27(月)・6/3(月)・10(月)・17(月)・24(月)・7/1(月)・8(月)・18(木)※・22(月)・29(月)							
時間	月曜日　5講時　16:00～17:30	場所	教育学部　B203					
担当講師	教育学部　教授　小林 英美	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円	

講座202　英米文学概論B　水戸

日程	4/11(木)・18(木)・25(木)・5/9(木)・16(木)・23(木)・30(木)・6/6(木)・13(木)・20(木)・27(木)・7/4(木)・11(木)・25(木)・8/1(木)							
時間	木曜日　3講時　12:40～14:10	場所	教育学部　A534					
担当講師	教育学部　教授　小林 英美	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円	

講座301　基礎地球惑星科学Ⅰ　水戸

日程	4/16(火)・23(火)・5/7(火)・14(火)・21(火)・28(火)・6/4(火)・11(火)・18(火)・25(火)・7/2(火)・9(火)・16(火)・23(火)・30(火)							
時間	火曜日　4講時　14:20～15:50	場所	理学部　第8講義室					
担当講師	理工学研究科　准教授　山田 卓司	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円	

講座302　基礎行列代数　水戸

日程	4/11(木)・18(木)・25(木)・5/9(木)・16(木)・23(木)・30(木)・6/6(木)・13(木)・20(木)・27(木)・7/4(木)・11(木)・25(木)・8/1(木)							
時間	木曜日　4講時　14:20～15:50	場所	理学部　第9講義室					
担当講師	理工学研究科　教授　下村 勝孝	回数	15回	人数	3名	講習料	9,720円	

講座303　ベクトル解析　※は振替授業　水戸

日程	4/15(月)・22(月)・5/8(水)※・13(月)・20(月)・27(月)・6/3(月)・10(月)・17(月)・24(月)・7/1(月)・8(月)・18(木)※・22(月)・29(月)							
時間	月曜日　5講時　16:00～17:30	場所	理学部　第2講義室					
担当講師	理工学研究科　准教授　大塚 富美子	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円	

講座304　集合入門　水戸

日程	4/12(金)・19(金)・26(金)・5/10(金)・17(金)・24(金)・31(金)・6/7(金)・14(金)・21(金)・28(金)・7/5(金)・12(金)・19(金)・26(金)							
時間	金曜日　4講時　14:20～15:50	場所	理学部　第1講義室					
担当講師	理工学研究科　教授　下村 勝孝	回数	15回	人数	3名	講習料	9,720円	

講座305　離散数学　水戸

日程	4/10(水)・17(水)・24(水)・5/15(水)・22(水)・29(水)・6/5(水)・12(水)・19(水)・26(水)・7/3(水)・10(水)・17(水)・24(水)・31(水)							
時間	水曜日　1講時　8:40～10:10	場所	理学部　第1講義室					
担当講師	理工学研究科　准教授　相羽　明	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円	

講座306　離散数学演習　水戸

日程	4/11(木)・18(木)・25(木)・5/9(木)・16(木)・23(木)・30(木)・6/6(木)・13(木)・20(木)・27(木)・7/4(木)・11(木)・25(木)・8/1(木)							
時間	木曜日　5講時　16:00～17:30	場所	理学部　第6講義室					
担当講師	理工学研究科　准教授　相羽　明	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円	

講座307　地層学　※は振替授業　水戸

日程	4/15(月)・22(月)・5/8(水)※・13(月)・20(月)・27(月)・6/3(月)・10(月)・17(月)・24(月)・7/1(月)・8(月)・18(木)※・22(月)・29(月)							
時間	月曜日　3講時　12:40～14:10	場所	理学部　第3講義室					
担当講師	理工学研究科　教授　安藤 寿男	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円	

講座 308　古生態学　【水戸】

日程	4/12(金)・19(金)・26(金)・5/10(金)・17(金)・24(金)・31(金)・6/7(金)・14(金)・21(金)・28(金)・7/5(金)・12(金)・19(金)・26(金)						
時間	金曜日　2講時　10:20～11:50	場所	理学部　第2講義室				
担当講師	理工学研究科　教授　安藤 寿男	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円

講座 401　メカトロニクス　【日立】

日程	6/13(木)・17(月)・20(木)・24(月)・27(木)・7/1(月)・4(木)・8(月)・11(木)・18(木)・22(月)・25(木)・29(月)・8/1(木)・5(月)						
時間	月曜日　3講時　12:40～14:10／木曜日　1講時　8:40～10:10	場所	工学部 W1-3 階　301				
担当講師	工学部　教授　増澤　徹	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円

講座 501　基礎生化学　【阿見】

日程	6/14(金)・18(火)・21(金)・25(火)・28(金)・7/2(火)・5(金)・9(火)・12(金)・16(火)・19(金)・23(火)・26(金)・30(火)・8/6(火)						
時間	火曜日・金曜日　1講時　8:40～10:10	場所	農学部　フードイノベーション棟　多目的講義室（204）				
担当講師	農学部　准教授　小島 俊雄	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円

講座 502　一般化学Ⅱ　【阿見】

日程	6/14(金)・18(火)・21(金)・25(火)・28(金)・7/2(火)・5(金)・9(火)・12(金)・16(火)・19(金)・23(火)・26(金)・30(火)・8/6(火)						
時間	火曜日・金曜日　2講時　10:20～11:50	場所	農学部　フードイノベーション棟　多目的講義室（204）				
担当講師	農学部　教授　長谷川 守文	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円

講座 503　基礎有機化学　【阿見】

日程	4/10(水)・17(水)・24(水)・5/15(水)・22(水)・29(水)・6/5(水)・12(水)・19(水)・26(水)・7/3(水)・10(水)・17(水)・24(水)・31(水)						
時間	水曜日　1講時　8:40～10:10	場所	農学部　講義棟 100 講義室				
担当講師	農学部　教授　戸嶋 浩明	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円

講座 504　動物形態学　※は振替授業　【阿見】

日程	4/15(月)・22(月)・5/8(水)※・13(月)・20(月)・27(月)・6/3(月)・10(月)・17(月)・24(月)・7/1(月)・8(月)・18(木)※・22(月)・29(月)						
時間	月曜日　3講時　12:40～14:10	場所	農学部　講義棟 100 講義室				
担当講師	農学部　教授　中島 弘美	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円

講座 505　動物細胞工学　【阿見】

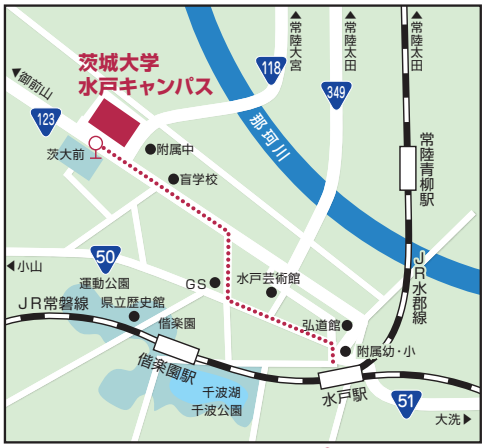
日程	4/16(火)・23(火)・5/7(火)・14(火)・21(火)・28(火)・6/4(火)・11(火)・18(火)・25(火)・7/2(火)・9(火)・16(火)・23(火)・30(火)						
時間	火曜日　2講時　10:20～11:50	場所	農学部　講義棟 101 講義室				
担当講師	農学部　准教授　金澤 卓弥	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円

講座 506　農作業学　【阿見】

日程	6/14(金)・18(火)・21(金)・25(火)・28(金)・7/2(火)・5(金)・9(火)・12(金)・16(火)・19(金)・23(火)・26(金)・30(火)・8/6(火)						
時間	火曜日・金曜日　3講時　12:40～14:10	場所	農学部　講義棟 102 講義室				
担当講師	農学部　教授　小松崎 将一	回数	15回	人数	5名	講習料	9,720円

キャンパスのご案内

※本学にお越しの際は、公共交通機関をご利用ください。



水戸キャンパス
【水戸市文京2－1－1】

JR水戸駅(北口)バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」に乗車、「茨大前」又は「茨大正門前」で下車。
(バス乗車時間は約25分)

日立キャンパス
【日立市中成沢町4－12－1】

JR日立駅(中央口)から日立電鉄バス、中央線経由「平和台行3」又は「小咲台行4」に乗車、「茨大前」で下車。
JR常陸多賀駅から日立電鉄バス、中央線経由「日立駅行3」又は「日立駅行4」に乗車、「茨大前」下車。
(いずれもバス乗車時間は約20分)

阿見キャンパス
【阿見町中央3－21－1】

JR土浦駅(西口)バスターミナル1番乗り場から関東鉄道バス「阿見中央公民館行」に乗車、「茨大前」下車。
(バス乗車時間は約20分)

2019年度 リカレント教育プログラム
後 期
受講生募集

茨城大学
Ibaraki University

リカレント教育プログラムとは

社会人の学び直しニーズに応えるとともに、人材育成を通じた地域創生をめざします。

1. 誰でも1科目単位で自由に学べるオープンコース（公開講座・公開授業）
2. 様々な専門分野のエッセンスを複数の科目を受講して学べる専門コース

茨城大学社会連携センター

TEL.029-228-8413　syougai@ml.ibaraki.ac.jp

FAX.029-228-8089

茨城大学　公開講座　オープンコース　検索

お申し込み方法

ホームページ　下記アドレスにアクセスし、専用フォームからお申し込みください。

http://koukai.scc.ibaraki.ac.jp/

FAX・持参

「公開講座・公開授業申込書」と記入の上、
①お名前（ふりがな）、②郵便番号、③ご住所、④お電話番号（日中、連絡のつく電話）、⑤携帯電話番号、⑥メールアドレス、⑦受講希望の講座番号及び講座・授業名を明記し、茨城大学社会連携センター宛にお申し込みください。
（※電話での受付はしておりません。）

オープンコース（有料）

講座①　続・変体仮名を読む

水戸　中級者

日程　10/2(水)・9(水)・16(水)・23(水)・30(水)・11/6(水)・13(水)・27(水)・12/4(水)・11(水)・18(水)・1/8(水)・15(水)・22(水)・29(水)
開講時間　10:20 ～ 11:50
講義概要
変体仮名とは明治中期まで用いられていた平仮名のことです。本講座では、江戸期の変体仮名を判読できるようになった方が、平安期の古筆仮名を判読できるようになることを目標に、『古今和歌集』の古写本や、紀貫之自筆本に近いとされる青谿書屋本『土左日記』などを読んでいきます。（内容の解説よりも文字の形に対する解説に重点を置きます。）
備　考
江戸期の変体仮名の判読能力をお持ちの方に受講をおすすめします。（初心者の方でも受講可能ですが、江戸期にもよく見られる変体仮名の解説はあまりしませんので、御自身で勉強して頂くことになります。）また、開講日程を変更する場合があります。（1 ～ 2 回程度、開講日が減る可能性があります。）
教科書等　必要に応じて資料、ワークシートなどを配布します。

担当講師　人文社会科学部　教授　櫻井 豪人
開講場所　社会連携センター　3 階研修室
募集人数　30 名
回　数　15 回
受講対象　社会人
講 習 料　9,900 円
申込期限　9/18（水）

講座②　社会人のための建設技術基礎講習

水戸　中級者

日程　10/3(木)・10(木)・17(木)・24(木)・31(木)
開講時間　18:00 ～ 19:30
講義概要・担当講師
茨城地域の安全・安心と豊かな社会の実現に向けて、社会基盤施設の質の高い整備と維持管理を持続的に確保するために、所属する組織や企業にかかわらず、茨城県内建設技術者の技術力と職業倫理の向上を目的とした講座です。茨城大学が、公益社団法人茨城県測量・建設コンサルタント協会と連携し、各々の最新情報と現場の実態を互いに教授し、互いに学びあうことによって茨城のインフラづくりのプロを育成し、将来の人材確保を目指します。

第１回	「建設技術と地域の未来」	理工学研究科　教授	呉　智深
第２回	「社会を支える様々な調査」	理工学研究科　教授	桑原　祐史
第３回	「都市基盤づくりの基礎」	理工学研究科　教授	原田　隆郎
第４回	「地方創生とまちなか再生」	理工学研究科　教授	山田　稔
第５回	「これからの建設技術」	理工学研究科　教授	金　利昭

備　考
希望者を募り、現場視察会を計画しています。詳細については、講義の際ご案内します。
教科書等　オリジナルテキストを配付。

開講場所　社会連携センター　3 階研修室
募集人数　30 名
回　数　5 回
受講対象　社会人
講 習 料　6,600 円
申込期限　9/20（金）

講座③　生涯スポーツ安全登山～自然の中で、安全に、楽しく～

水戸 初心者

日程　10/12(土)・19(土)・26(土)・11/2(土)・9(土)・16(土)・30(土)
開講時間　講義：13:30 ～ 15:00（11/2・11/16 を除く）
登山実技：11/2　高 鈴 山（日立市）9:00 ～ 15:00
11/16 生瀬富士（大子町）9:00 ～ 15:00
講義概要
歩くことが健康に良いとは、よく知られています。健康維持の観点から、山登りを始めてみませんか。「安全な登山の考え方」「疲れない歩き方」「地図の見方」「コンパスの使い方」等を、初めての方にも分かりやすいように話します。自然の中で、健やかな心身を涵養しましょう。
備　考
11/2・11/16 の登山実技は受講者のレベルにより内容を変更する場合があります。受講者には保険に加入していただきます。
教科書等　「楽しい登山」（文部科学省）1,027 円（税込）
テキストは当日販売します。
担当講師　生涯学習研究会
日本スポーツ協会公認
山岳コーチ３　菅谷 政宏
回　数　７回
受講対象　社会人
講 習 料　8,800 円
開講場所　社会連携センター　３階研修室
募集人数　20 名
申込期限 10/2（水）

講座④　はじめてのプログラミング ～「スクラッチ」の世界を楽しもう～

水戸 初心者

日程　10/13(日)・11/24(日)・12/15(日)・22(日)・1/12(日)・26(日)・2/2(日)・9(日)
開講時間　11:20 ～ 12:50
講義概要
2020 年から小学校で「プログラミング」が必修化されます。「プログラミング」能力が、社会で教養となりつつあります。これから「プログラミング」を始めようとする人のための講座です。「スクラッチ」というビジュアルプログラミング言語を使って「プログラミング」を楽しみましょう。「スクラッチ」はブロックを組み合わせて、ゲーム、音楽を簡単に作ることができます。「スクラッチ」は、NHK の番組「Why!? プログラミング」でも取りあげられています。
備　考
電子メールやインターネット検索ができること。
教科書等　オリジナルテキストを配布します。
担当講師　名誉教授　仙波 一郎
開講場所　図書館　３階セミナールーム
募集人数　15 名
回　数　８回
受講対象　小中学生・高校生・大学生・社会人
（小学生は４年生以上、保護者同伴）
講 習 料　7,700 円
申込期限 10/2（水）

講座⑤　読書の秋、英語多読を楽しもう！

水戸 初心者

日程　10/15(火)・29(火)・11/12(火)・26(火)・12/10(火)・17(火)・1/7(火)・21(火)
開講時間　18:00 ～ 19:30
講義概要
英語のペーパーバックなどを楽しんで読めたら、とは思いませんか。簡単な英語の絵本からスタートして、たくさん読むことで、辞書をひかず、いちいち頭のなかで日本語に訳さずに英語を読むことができるようになります。茨城大学の図書館も利用していただきます。英語多読を始めてみたい方も、すでに趣味として自分なりに英語多読を行っている方や、なんどか試してみたがなかなか長続きしない方もぜひどうぞ。仲間が待っています！
備　考
英語の音声に触れていただくために、授業時間内にオンライン上にある音声素材を聴いていただくことがあります。可能であれば、ネットにつながるスマホやタブレット、そしてヘッドホンをご持参ください。
教科書等　「めざせ！ 100 万語読書記録手帳」（SSS 英語学習法研究会）
コスモピア　600 円＋税
担当講師　全学教育機構
准教授　上田 敦子
回　数　８回
受講対象　高校生・大学生・社会人
講 習 料　7,700 円
開講場所　共通教育棟１号館
２階２A 教室
募集人数　20 名
申込期限 10/2（水）

講座⑥　外国人に日本語を教えてみよう！

阿見 初心者

日程　9/25(水)・10/2(水)・9(水)・16(水)・23(水)・11/6(水)・13(水)・20(水)・27(水)・12/4(水)・11(水)・18(水)
開講時間　19:30 ～ 20:30
講義概要
入管法の改正を受け、今後ますます日本に住む外国人が増加することが予想されます。もし知り合いになった外国人から「日本語を教えて」と言われたら、あなたはどうしますか？　本講座では、外国人に対する日本語教育の“初歩”を学び、「外国語としての日本語」を考えます。希望者には公開講座前の 18 時～ 19 時半に本学の留学生及び地域の外国人に会話形式で日本語を教えていただきます。（人数制限がございますので、ご注意ください）
教科書等　参考資料などは、講座で配布します。
担当講師　全学教育機構
准教授　瀬尾 匡輝
回　数　12 回
受講対象　高校生・大学生・社会人
講 習 料　7,700 円
開講場所　国際交流会館セミナー室
募集人数　20 名
申込期限 9/13（金）

専門コース

中学生からの美術アカデミー（基礎デッサン編）

水戸 初心者

日程　9/29(日)・10/6(日)・13(日)・20(日)・27(日)・11/3(日・祝)・10(日)・17(日)・24(日)・12/1(日)・8(日)・15(日)・22(日)・2/2(日)・9(日)・16(日)・23(日・祝)・3/1(日)・8(日)・15(日)・22(日)
開講時間　8:50 ～ 12:20（3.5h）
講義概要
中学の新教科「美術」をしっかりやってみたいと考える生徒に必要となる基礎力養成講座です。将来の表現や鑑賞活動につながる能力を身に付けることは、充実した人生や豊かな暮らしを育むことにもつながることでしょう。この講座では、整理されたデッサンプログラムに取り組むことで〈美術的なモノの見方〉を修養します。
また、次年度の春期には本講座を修了した生徒たちに応用編となる美術講座を計画しています。
備　考
来年春期に開講予定の「応用編」と併せて受講できることが望ましい。
教科書等　オリジナルテキスト
担当講師　教育学部
教授　島　剛
回　数　21 回
受講対象　中学生
講 習 料　31,320 円
開講場所　教育学部　C 棟　101 号室
募集人数　20 名
申込期限 9/13（金）

講座⑦　春に咲かせよう！牡丹（ボタン）・芍薬（シャクヤク）講座

つくば牡丹園 初心者

日程　10/9(水)・11/6(水)・12/11(水)・1/8(水)
開講時間　10:00 ～ 12:00
講義概要
自分の手でキレイな花を咲かせてみませんか。
牡丹（ボタン）・芍薬（シャクヤク）の歴史や特徴・育種や交配・無農薬、無化学肥料、酵素農法に関する講義を受講し、実際に株の植え替えや管理の実習を通して、植物が元気に育つ土づくりから育成方法までを土づくりのプロが教えます。
備　考
受講者は、無料で園内に入場することができます。
作業実習を行います。汚れても良い服装・動きやすい靴・作業用手袋（軍手）をご準備ください。
教科書等　オリジナルテキストを配布します。
担当講師　農学部　教授　小松崎　将一
つくば牡丹園　園長　関　浩一
回　数　４回
受講対象　小中学生・高校生・大学生・社会人
開講場所　つくば牡丹園内カフェ
（つくば市若栗 500）
講 習 料　6,600 円
募集人数　35 名
申込期限 9/27（金）

オープンコース（無料）

講座⑧　人生の３大支出－教育、住宅、老後－と、これらに備える資産形成

水戸 初心者

日程　11/2(土)
開講時間　13:30 ～ 15:00
講義概要
人生の３大支出－教育、住宅、老後－について、どれくらい資金が必要なのでしょう。不安を感じる方も、まずはその実態を掴んで予想される出費に備え、自分らしい将来のライフプランを立てる必要があります。
３大支出やこれらに備えた資産形成に興味のある方も多いと思います。こうした内容の入門編として、そのポイントについて茨城県金融広報委員会（事務局日本銀行水戸事務所）が派遣する金融広報アドバイザーがご説明します。
教科書等　当日資料を配布します。
担当講師　茨城県金融広報委員会
金融広報アドバイザー
中里 矩明
回　数　１回
受講対象　社会人
講 習 料　無料
開講場所　社会連携センター　３階研修室
募集人数　30 名
申込期限 10/25（金）

講座⑨　ゼロからはじめるヤギ飼育講座 －あなたも「ペーター」をめざしてみませんか？－

阿見 初心者

日程　12/7(土)
開講時間　13:00 ～ 17:00（休憩 14:55 ～ 15:05）
（講義 13:00 ～ 14:55・実技 15:05 ～ 17:00）
講義概要
近年、除草対策やふれあい動物として、ヤギを飼いたいと考える方が増えています。本公開講座では、ヤギという動物を知ってもらうための講義と、実際に飼うために必要な飼育管理技術（おもにヤギの取扱いや病気の予防、爪切りの仕方など）について、実習形式で学びます。
備　考
実際にヤギに触れる実習を含みますので、汚れても良い服装、長靴、作業用手袋（軍手）でご参加ください。本講座は過去開講分と同じ内容ですので、以前の参加者はご遠慮ください。
教科書等　なし
担当講師　農学部
教授　安江　健
回　数　１回
受講対象　高校生・大学生・社会人
開講場所　農学部国際 FS センター内
講義室およびヤギ飼育場
講 習 料　無料
募集人数　20 名
申込期限 11/29（金）

3 公開授業

申込期限　2019年9月13日（金）

- 公開授業とは、学生対象の正規授業を開放し、学生と一緒に大学の授業を受講していただくものです。
- 講義概要、教科書等の詳細・情報については、茨城大学シラバス検索システムで確認してください。
  茨城大学シラバス検索システム（https://idc.ibaraki.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx）
- 教科書は次の販売所で購入できます。　水戸キャンパス　学生生活協同組合購買　書籍部
  日立キャンパス　学生生活協同組合購買　書籍部
  阿見キャンパス　学生生活協同組合購買　書籍部

授業時間

1講時▶8:40～10:10　2講時▶10:20～11:50　3講時▶12:40～14:10　4講時▶14:20～15:50　5講時▶16:00～17:30

講座 101　コミュニケーションと芸術文化～英国文化入門：再発見と再利用の文化史～　水戸

日程	12/5(木)・12(木)・19(木)・26(木)・1/9(木)・16(木)・30(木)・2/6(木)						
時間	木曜日　3講時　12:40～14:10	場所	共通教育棟　2号館　11番教室				
担当講師	教育学部　教授　小林 英美	回数	8回	人数	3名	講習料	7,700円

講座 201　英米文学・文化演習　水戸

日程	9/26(木)・10/3(木)・10(木)・17(木)・24(木)・31(木)・11/14(木)・28(木)・12/5(木)・12(木)・19(木)・26(木)・1/9(木)・16(木)・30(木)						
時間	木曜日　5講時　16:00～17:30	場所	教育学部　B棟　311室				
担当講師	教育学部　教授　小林 英美	回数	15回	人数	5名	講習料	9,900円

講座 301　微積分Ⅱ　水戸

日程	10/2(水)・9(水)・16(水)・23(水)・30(水)・11/6(水)・13(水)・27(水)・12/4(水)・11(水)・18(水)・25(水)・1/8(水)・15(水)・22(水)						
時間	水曜日　2講時　10:20～11:50	場所	理学部　第9講義室				
担当講師	理学部　教授　下村 勝孝	回数	15回	人数	5名	講習料	9,900円

講座 302　基礎物理学Ⅱ　※は振替授業　水戸

日程	9/30(月)・10/7(月)・21(月)・28(月)・11/7(木)※・11(月)・18(月)・25(月)・12/2(月)・9(月)・16(月)・23(月)・1/6(月)・20(月)・27(月)						
時間	月曜日　2講時　10:20～11:50	場所	共通教育棟　2号館　30番教室				
担当講師	理学部　教授　阪口　真	回数	15回	人数	5名	講習料	9,900円

講座 303　堆積環境論　※は振替授業　水戸

日程	9/30(月)・10/7(月)・21(月)・28(月)・11/7(木)※・11(月)・18(月)・25(月)・12/2(月)・9(月)・16(月)・23(月)・1/6(月)・20(月)・27(月)						
時間	月曜日　3講時　12:40～14:10	場所	理学部　第10講義室				
担当講師	理学部　教授　安藤 寿男	回数	15回	人数	5名	講習料	9,900円

講座 304　太陽惑星圏科学　水戸

日程	10/2(水)・9(水)・16(水)・23(水)・30(水)・11/6(水)・13(水)・27(水)・12/4(水)・11(水)・18(水)・25(水)・1/8(水)・15(水)・22(水)						
時間	水曜日　2講時　10:20～11:50	場所	理学部　第6講義室				
担当講師	理学部　准教授　野澤　恵	回数	15回	人数	5名	講習料	9,900円

講座 401　電気電子工学概論【機械システム】　※は振替授業　水戸

日程	9/30(月)・10/7(月)・21(月)・28(月)・11/7(木)※・11(月)・18(月)・25(月)						
時間	月曜日　4・5講時　14:20～15:50、16:00～17:30	場所	共通教育棟　2号館　10番教室				
担当講師	工学部　教授　増澤　徹	回数	8回	人数	5名	講習料	9,900円

講座 402　伝熱工学　日立

日程	10/1(火)・8(火)・15(火)・29(火)・11/5(火)・12(火)・19(火)・26(火)・12/3(火)・10(火)・17(火)・24(火)・1/7(火)・21(火)・28(火)						
時間	火曜日　2講時　10:20～11:50	場所	工学部㈼1棟　3階　301講義室				
担当講師	工学部　教授　稲垣 照美	回数	15回	人数	3名	講習料	9,900円

講座 501　動物行動学　阿見

日程	9/27(金)・10/1(火)・4(金)・8(火)・11(金)・15(火)・25(金)・29(火)・11/1(金)・5(火)・8(金)・12(火)・15(金)・19(火)・22(金)						
時間	火・金曜日　2講時　10:20～11:50	場所	農学部　講義棟　102室				
担当講師	農学部　教授　安江　健	回数	15回	人数	5名	講習料	9,900円

講座 502　食品化学　阿見

日程	10/2(水)・9(水)・16(水)・23(水)・30(水)・11/6(水)・13(水)・27(水)・12/4(水)・11(水)・18(水)・25(水)・1/8(水)・15(水)・22(水)						
時間	水曜日　1講時　8:40～10:10	場所	農学部　講義棟　102室				
担当講師	農学部　教授　長南　茂	回数	15回	人数	5名	講習料	9,900円

オープンコース公開講座・公開授業の応募の手続き

❶ 公開講座・公開授業に応募（Web からの申込のみ受付完了メールが届きます。）

受講証が届くまで、受付完了メールは保存しておいてください。
応募は先着順です。受講不可となった場合のみご連絡を差し上げます。
申込期限までに連絡がない場合、受講決定となります。

❷ 初回開講日約１週間前に大学から応募者に受講証と講習料振込依頼書（無料講座の場合は受講証のみ）を郵送します。

応募者が少ない場合、中止になる場合があります。その場合、応募された方へ別途ご連絡を差し上げます。
受講日３日前までに届かない場合は、ご連絡ください。

❸ 講習料をお支払い。

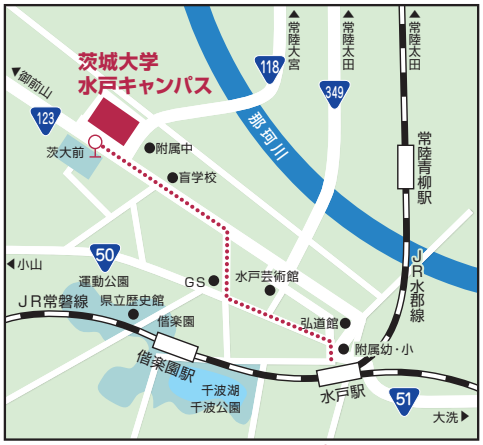
最寄りの金融機関窓口で納付してください。
振込時の振込手数料は、振込人負担となります。
郵便局ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

❹ 講座を受講してください。

※各講座・授業の日程等に変更が生じる場合があります。
※科目により申込期限が異なりますのでご注意ください。
※受講希望者数が少ない場合、中止になることがあります。
※講習料は、期間中に変更される場合があります。
※各講座・授業で使用するテキスト・教材は別途負担が必要になる場合があります。
※授業内容等については、社会連携センター Web サイトにて確認することができます。
※お申し込み後のキャンセルは受け付けません。
※メールで連絡する場合がありますので、右記のドメインを受信可能にしてください。@vc.ibaraki.ac.jp

キャンパスのご案内

※本学にお越しの際は、公共交通機関をご利用ください。



水戸キャンパス
【水戸市文京２−１−１】

JR水戸駅(北口)バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」に乗車、「茨大前」又は「茨大正門前」で下車。
(バス乗車時間は約25分)

日立キャンパス
【日立市中成沢町４−１２−１】

JR日立駅(中央口)から日立電鉄バス、中央線経由「平和台行3」又は「小咲台行4」に乗車、「茨大前」で下車。
JR常陸多賀駅から日立電鉄バス、中央線経由「日立駅行3」又は「日立駅行4」に乗車、「茨大前」下車。
(いずれもバス乗車時間は約20分)

阿見キャンパス
【阿見町中央３−２１−１】

JR土浦駅(西口)バスターミナル1番乗り場から関東鉄道バス「阿見中央公民館行」に乗車、「茨大前」下車。
(バス乗車時間は約20分)

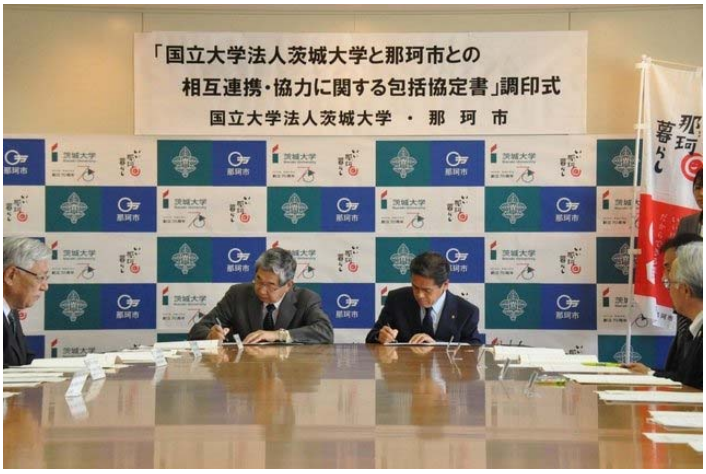
資料 2

茨城大学と那珂市が包括連携協定を調印、自治体初のリカレント教育カスタムプログラムも開講

茨城大学と那珂市は、10 月16 日、「国立大学法人茨城大学と那珂市との相互連携・協力に関する包括協定書」による協定を締結し、学術研究の成果を活かした地域課題の解決や人材育成を推進することになりました。また、この協定により、茨城大学の「那珂市リカレント教育プログラム」が新たに開講しました。

茨城大学と那珂市との間では、これまで学校教育、生涯学習、防災などの分野や、学生のインターンシップ受入などの面でさまざまな協力事業を行ってきましたが、今後さらに幅広い連携協力を体系的に進めていくことを目指し、今回の包括協定の締結に至りました。

10 月16 日に那珂市役所で行われた協定書の調印式で、茨城大学の三村信男学長は、「市長には就任直後から大学との連携に対する積極的なお考えを表明いただいていたが、その後短期間で調印締結に至ったことについて、市長の強いリーダーシップに感謝したい。この機会にさらに連携を深め、相談を密にしながら、地域社会への貢献につながる取り組みにつなげたい」と挨拶しました。また、那珂市の先﨑光市長は、「那珂市をもっと発展させるには人づくりが必要だと思っている。そのためには茨城大学の力を何としてもお借りしたいと考えていた。さまざまな連携テーマがあるが、茨城大学の知の財産を地域のみんなで活かし、前進していくことが今求められている。今日はその輝かしい一歩となった」と語りました。



協定書に署名する三村学長と先﨑市長

この協定に基づく第一弾の事業として、茨城大学において、那珂市職員向けのリカレント教育プログラムを2019 年度後期より開講しました。同大のリカレント教育プログラムでは、企業や自治体ごとにカスタマイズしたカリキュラムを提供するコースを開講しており、これまで2つの県内企業向けのプログラムがスタートしていますが、自治体向けには初めての開講となります。

学長から那珂市職員に受講許可証が手渡された

今年度後期は、"第一期生"として30 歳代の2 名の職員が受講を開始。2 名の職員には、三村学長から受講許可証が手渡されたあと、先﨑市長から「那珂市の職員には、いろんなことに探究心をもっていてほしいと考えている。2人には那珂市の人材を拓いていくパイオニアとなっていくことを期待している」とエールが送られました。受講する職員は、「学生のみなさんと一緒に、積極的に自分から学んでいくという姿勢で授業に臨むことで、自分の成長はもちろん、ゆくゆくは地域に学んだことを還元する機会にできればと考えている」などと意気込みを述べました。

資料 3

令和元年度戦略的地域連携プロジェクト　１２件

NO.	事業責任者			プ　ロ　ジ　ェ　ク　ト　名
	自治体等	茨城大学		
	連　　携　　先	所属・職名	氏　　名	
1	茨城町　生活経済部　農業政策課	農学部　教授	成澤　才彦	露地栽培農産物のチャレンジ実証プロジェクト
2	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	広域水圏環境科学教育研究センター　助教	増永　英治	茨城県・茨城大学共同霞ヶ浦水循環・生態系解明プロジェクト
3	取手市役所　図書館	人文社会科学部　教授	杉本　妙子	民話と方言で取手再発見！プロジェクト
4	那珂市教育委員会	教育学部　准教授	丸山　広人	新教育支援センター設立に係る地域連携不登校解消事業　「自然や人とのかかわり合いを通して不登校解消を目指すプログラムの構築」
5	茨城県産業技術イノベーションセンター	工学部　教授	周　立波	型技術ワークショップを利用した県内中小企業と大手製造業のマッチング
6	水戸市　生活環境部　清掃事務所	工学部　教授	小林　薫	水戸市廃棄物第一最終処分場の廃止措置早期完了プロジェクト
7	キッズルームばんびーに	農学部　助教	望月　佑哉	児童発達支援・放課後デイサービス事業所と連携した、作物栽培プロジェクト ～イチゴ栽培を通じて食べ物ができるまでを学ぼう～
8	NPO法人日立理科クラブ	工学部　教授	乾　正知	［理数アカデミー］茨城大学特別授業
9	株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック 株式会社　茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント	理学部　教授 理学部　准教授	中村　麻子 百武　慶文	プロスポーツチームとの連携による地域活性化促進プロジェクト
10	水戸黄門漫遊マラソン実行委員会事務局	人文社会科学部　教授	田中　泉	水戸黄門漫遊マラソン開催に伴う，地域への経済波及効果の測定
11	茨城県近代美術館天心記念五浦分館	教育学部　准教授	片口　直樹	大学と美術館の協働による文化事業の展開 ー造形ワークショップ『みんなで描くハニカムタウン』の実践からー
12	つくば市谷田部農業協同組合 JAつくば市谷田部	農学部　准教授	増冨　祐司	茨城県つくば市谷田部における気候変動適応支援水稲の白未熟粒発生低減に向けた圃場環境・栽培管理調査

資料 4

令和元年度地域研究・地域連携プロジェクト　３件

No	事業責任者			プ　ロ　ジ　ェ　ク　ト　名
	自治体等	茨城大学		
	連　　携　　先	所属・職名	氏　　名	
1	鹿嶋市政策秘書課	人文社会科学部　教授	馬渡　剛	市民共創教育研究センター・提携自治体共催シンポジウムの実施
2	株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック	人文社会科学部　教授	高橋　修	連携協定イベント「オール茨城大学招待デー」の強化と実施
3	株式会社 鹿島アントラーズFC	人文社会科学部　教授	澁谷　浩一	地域に根ざしたプロスポーツの存在意義と今後のあり方について世界史的視野で展望する： 鹿島アントラーズの人文社会科学部地域史シンポジウム「スポーツの世界史ー茨城からアジア、世界へー」への参加、社会連携センターとのシンポジウム共同開催

資料 5

令和元年度学生地域参画プロジェクト　　１１件

NO.	所属・学年	氏　　名	プ　ロ　ジ　ェ　ク　ト　名	連携先	
1	工学部 3年	齋藤　広明	IoTを用いた茨城県観光業活性プロジェクト「Bridge」	行方市　政策推進室	
2	農学部 3年	武田　迅	のらボーイ＆のらガール　食農教育プロジェクト	阿見町男女共同参画センター	グランドワーク笠間
				のらっくす農園	
3	農学部 3年	伊藤　友紀	FES(FoodEducationSupporter)～食育応援隊～	茨城かすみ農業協同組合	
4	人文社会科学部3年	小川　文太	減量住宅in水戸	千住 Public Network EAST	株式会社一円
				アドリエ結	水戸市市民協働部防災・危機管理課
5	教育学部　3年	黒畑　晴喜	さまーすくーるin大子2019	大子町役場まちづくり課	
6	人文社会科学部2年	河井　孝太	地域の伝統文化継承に学生が取り組む「西塩子の回り舞台」プロジェクト	西塩子の回り舞台保存会	常陸大宮市まちづくりネットワーク
7	教育学部3年	阪井　一仁	『みとっ歩－ゼロから始める水戸生活－vol.3』制作プロジェクト	水戸市市長公室みとの魅力発信課	
8	理学部　4年	鈴木　大河	茨城大学地質情報活用プロジェクト	茨城大学ジオパーク推進室	つくば市経済部観光推進課
				株式会社東京地図研究社	
9	人文社会科学部3年	須郷　まどか	まなびの輪	大洗町役場まちづくり推進課	大洗町大洗第一中学校
				大洗町立大洗小学校	
10	人文社会科学部　3年	三上　りか	五浦遊学ルートマップ作成プロジェクト	茨城県立天心記念五浦美術館	
11	工学部　2年	夛田　雄介	水戸堀町・ひたちなか市における地域資源の活用	みなとeaieaiクラブ	医療保人　博仁会
				株式会社　オセヤー級建築士事務所	

令和元年度学生地域参画プロジェクト（スタートアップ版）　５件

NO.	所属・学年	氏　　名	プ　ロ　ジ　ェ　ク　ト　名	連携先	
1	人文社会科学部３年	萩原　健太	福祉や健康をテーマにした多世代参加型のまちづくり	医療法人博仁会　フロイデ水戸メディカルプラザ	社会福祉法人くれよん工房
2	工学部４年	清水　喬宏	大学生による"ものづくり教室"の企画と実践	茨城県立北茨城特別支援学校	茨城県立常陸太田特別支援学校PTA
3	人文社会科学部３年	中橋　彩乃	茨大生×地域防災プロジェクト（茨大東北ボランティア＊Fleur＊）		
4	工学部４年	加納　歩	バスに乗って日立の街を活性化！		
5	人文社会科学部２年	森田　耕平	大洗応援隊！Presents　ほげFes～音楽で広がる商店街～	髭釜商店街	大洗町役場まちづくり推進課
				大洗町商工会	京都大学防災研究所
				大洗町商店街	

資料 6

茨城大学 学生地域活動発表会２０１９〈はばたく！茨大生〉春の企画

平成 31 年 4 月に全学教育機構・社会連携センター主催にて茨城大学学生地域活動発表会２０１９〈はばたく！茨大生〉春の企画を実施した。〈はばたく！茨大生〉は春と冬の年 2 回開催となっており、春は全学教育機構、冬は社会連携センターが中心になって企画することとなっている。今回の春企画では、社会連携センターは参加する学生地域参画プロジェクト関係の学生たちのとりまとめ及びサポートを行い、「社会連携センター」としてポスター発表にも参加した。

展　示　期　間：　平成３１年４月５日（金）～１９日（金）

学生による発表:　平成３１年４月１０日（水）14：30～16：00

場　　所：　（展示）茨城大学図書館本館玄関、（発表）講堂
参　加　団　体：　１１団体、２個人

講堂での活動発表

新入生歓迎

はばたく茨大生（イバダイ） 2019 春企画

茨城大学では、学生のみなさんが地域の活動や海外研修などの学修の成果を発表し、相互に交流しあう「はばたく茨大生」という企画を定期的に実施しています。
先輩方の学外学修活動を知ることで、これからの大学生活へのイメージを深めましょう！

講演・活動発表「Let's iOP!」

講堂　4月10日 水　14:30～16:00

地域や世界で活躍されている方の講演や、キャンパス内外で、様々な活動をしてきた先輩学生たちの活動発表が行われます。

ポスター展示

図書館玄関

4月5日 金～4月19日 金

先輩学生たちの様々な授業外活動に関するパネル展示を行います。

カテゴリー	発表代表者		タイトル
発展学修	岩田健太郎	人文社会科学部・３年	岡倉天心・五浦発信プロジェクト
	河合孝太	人文社会科学部・２年	西塩子の回り舞台 てつだい
	須郷まどか	人文社会科学部・２年	まなびの輪
	中島千尋	教育学部・３年	日本一つながる学食プロジェクト
	阪井一仁	教育学部・３年	みとっ歩 - ゼロから始める水戸生活 - vol.2 制作プロジェクト
	夛田雄介	工学部・２年	ぴたっとひたちなか
	社会連携センター		社会連携センター
インターンシップ	苧木彩華	教育学部・４年	教育インターンシップ
ボランティア	佐藤綺音	人文社会科学部・３年	茨大東北ボランティア＊Fleur＊
	村岡早紀	人文学部・４年	ピアサポーター活動
海外研修	西崎　壮	教育学部・４年	交換留学「アメリカひとり旅のすすめ」
	グローバル教育センター		短期語学研修
	国際交流課		AIMSプログラム
その他	広報室		iOPの構想に出会う「iOPラボ」

お問い合わせ ● 茨城大学 学務課 029-228-8412

茨城大学
Ibaraki University

中止

はばたく！茨大生

2019年度 学生地域活動発表会

大学が地域社会に貢献できることは?
地域社会が大学に求めることは?
学生が地域のみなさまとともに歩んだ報告をいたします。
現在の学生と、未来の茨城。
若い感性とエネルギー、知恵。
次のヒントがここにあるかもしれません。
ぜひご来場ください。

Part1｜学生によるプレゼンテーション
Part2｜ポスター発表、交流会

日　時 2020年3月3日（火）13:30～16:00（受付開始13:00）
会　場 茨城大学水戸キャンパス理学部K棟1階インタビュースタジオ（水戸市文京2-1-1）
入場料 無料
主　催 茨城大学
問合せ 茨城大学 研究・社会連携部 社会連携課

TEL:029-228-8088　E-mail:chiikirenkei@ml.ibaraki.ac.jp　観覧申し込みは下記URLよりお願い致します。

www.scc.ibaraki.ac.jp

資料 7

いばらき創業 10,000 社プロジェクト
ビジネスを始める視点を育てよう！！　茨城大学・起業セミナー　8月22日　実施報告

実　施　日	令和元年 8 月 22 日（木）
時　間	１３：３０ ～ １７：００
場　所	茨城大学社会連携センター3 階研修室
司　会	社会連携センター副センター長　木村　成伸
講 演 講 師	株式会社納豆代表取締役社長（本学出身）宮下　裕任　氏 株式会社ユニキャスト代表取締役（本学出身）三ツ堀　裕太　氏
参 加 者 数	３４名 （一般：9名、学生3名、高校生：2名、学内 20 名）
アンケート回収数	8部
資料準備部数	５０部

【実施した効果や今後の対応について】

・参加の起因としては、「セミナーのポスター・チラシを見て」が多く、次いで「茨城大学、社会連携センターのホームページ」及び「高校・大学、学校の先生からの紹介等」が多かった。
・本セミナーに参加したことで起業についての「関心が高まった」が多く、「起業・創業が身近になった」、「これから起業について考えていきたい」と続いた。創業気運を醸成する機会とすることが出来た。
・企画に対しては「非常に満足」「満足」という方が 100%で、「期待通りだったから。」、「リアルな起業の話が聞けて良かった。」、「将来に関わる事を聞けた。」などの理由であった。また、「人生を楽しめそうな考え方を講義していただいてとても良い時間でした。」、「これからのうちの取り組みに活かせる話ばかりでした。ありがとうございました。」という意見もあり、起業について楽しく学べる機会を提供することが出来た。

「いばらき創業 10,000 社プロジェクト　ビジネスを始める視点を育てよう！！茨城大学・起業セミナー」

いばらき創業10,000社
プロジェクト
2019

茨城大学・起業セミナー

参加費 無料

どなたでも
ご参加いただけます！

8/22(木)

会場
茨城大学
社会連携センター
3階研修室

ビジネスを始める視点を育てよう!!

起業って何？　アイディアや想いはあるけれど、どうすれば起業できるの？　何かコツがあるの？
と思っている皆さん！　そんなときは、起業家の先輩達から話を聞くのがオススメ。
苦悩との闘い、成功の手応え、社会への貢献…見たことのない景色は、起業という一歩を踏み出した先にあります。
茨城大学の先生の講話や若手起業家の体験談に触れ、起業の世界を知るきっかけを手に入れましょう！

13:00▶受付開始　13:30▶開 会

13:40～ 新しいビジネスを捉える視点
－起業を必然から考える－

《講 師》**今村 一真 氏** 茨城大学人文社会科学部教授

〔休憩〕

14:50～ 若手起業家の声を聴く

《講 師》
宮下 裕任 氏
株式会社納豆 代表取締役社長

《講 師》
三ツ堀 裕太 氏
株式会社ユニキャスト 代表取締役

※それぞれの企業の詳細については、下記「お申し込み」のページをご覧ください。

〔休憩〕

16:00～ 若手起業家と話そう！

17:00▶終了予定

お申し込み
以下のURLより8月19日(月)までに
お申し込みください。
https://www.scc.ibaraki.ac.jp/event/3371.html/

お問い合せ
茨城大学研究・社会連携部社会連携課
Tel.029-228-8585 E-mail：chiikirenkei@ml.ibaraki.ac.jp

予 告
11月30日(土)に
茨城大学を会場に
「**茨城県 学生ビジネス プランコンテスト2019**」
を開催します

茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

茨城大学 Ibaraki University
2019年、茨城大学は創立70周年

資料 8

「茨城県　学生ビジネスプランコンテスト 2019」個別相談会（10 月 9 日）実施報告

実　　施　　日	令和元年 10 月 9 日（水）　　天気：晴れ
時　　間	14：30 ～ 17：00
場　　所	茨城大学社会連携センター3 階ミーティングルームIII
個別相談会講師	（公財）茨城県中小企業振興公社　林　雄一　氏
参　加　者　数	6 名【大学生 1 名、高校生：5 名（うち、プランのみの提出 1 名)】

【実施内容】

・　参加者は、プラン策定前の大学生とビジネスプランコンテストへの応募を考えている高校生のグループ及び当日都合により欠席の高校生 1 名であった。

　大学生に対してはプランにするための注意点を、ビジネスプランシートもしっかりと準備されていた高校生グループ及び当日欠席の高校生には、講師からプランシートへの追加事項や金額の設定などの具体的なアドバイスが行われた。

　なお、当日欠席の高校生には、講師からのアドバイスをメールで送信した。

資料 9

いばらき創業 10,000 社プロジェクト「創業者セミナー」（10 月 25 日）
実施報告

実　　施　　日	令和元年 10 月 25 日（金）　　天気：雨
時　　間	15：15 ～ 17：30
場　　所	筑波大学　第二エリア食堂（つくば市天王台 1-1-1）
セ ミ ナ ー 講 師	（株）キャリアプラス代表取締役　駒橋達也　氏
参　加　者　数	2 名【茨城大学生 1 名、筑波大学生 1 名】

【実施内容】

- 茨城県経営者協会主催の「Café de IBARAKI」（企業との交流会）の一角をお借りし、実施した
- 参加者は、具体的な構想はまだないものの、起業に興味がある学生（両者とも 2 年次生）であった。
- まず、講師の、学生時代から就職活動、就職から転職、起業、転職、そして現在の会社を起業するまでの間のそれぞれの経緯やその当時の時代背景などが説明された。その後、学生の現在の状況や考え方を話題とし、起業する際に必要なものが「人、モノ、金、情報」であることや、新しい技術を使ってビジネスを起こすことの重要性などのアドバイスがあった。
- 講師、学生とも、刺激を受けたとの感想であった。

資料 10

いばらき創業 10,000 社プロジェクト
「茨城県学生ビジネスプランコンテスト２０１９」11 月 30 日実施報告

実　施　日	令和元年１１月３０日（土）　天気：晴れ
時　間	１３：００ ～ １７：１５
場　所	茨城大学理学部Ｋ棟１階インタビュースタジオ
司　会	学生アルバイト　軍司さん
発　表　者	一次審査通過者８グループ
特別講演講師	日本貿易振興機構　茨城貿易情報センター所長　木ノ本　知弘　氏
参　加　者　数	８９名 （発表者：１４名、観覧者：３５名、審査員：６名、学内・関係者：３４名）
アンケート回収数	４７部
資料準備部数	１００部

【実施した効果や今後の対応について】

・観覧者の参加の起因としては、「学校・担任の先生などから」２７％、「茨城大学・社会連携センターの HP」２５％、「その他の HP やメール、SNS 等」は５％と、学校関係からの案内によるものが多く、次に「その他」２４％で、ポスターやチラシ、発表者からの案内等による来場が多かった。「茨城新聞広告」を見て来場された方は９％、「毎日新聞広告」２％、今回新規で実施したバスの中吊り広告については茨城交通、関東鉄道とも各２％だった。

・コンテストに対しては「非常に満足」「満足」という方が８９％で、「プレゼンテーションを行う皆様の生き生きとした表情が印象的でした。新たな事業（起業）にはパッションが必要だと思いました。」「会社内で新しい事業などについて考えることがあるが、様々なしがらみや想定される指摘などを先に考えてしまうことが多い。そんななか、学生の方のアイデア、そこからのビジネスプランの発表はとても刺激になった。」などの感想が多く寄せられた。

・企画でよかったものについては、「発表者（８名）によるプレゼンテーション」が４９％と１番多く、「学生が自ら踏み出してビジネスを考えていること自体が素晴らしいと思います。」「結果はどうなろうとプレゼン後の Q&A など学生たちにとって、とても貴重な経験になると思います。研究・プランの過程で地元への愛着心もより育まれると思いました。」などの感想が寄せられた。次に多かったのは「特別講演」２５％で、「海外の社会問題を解決するビジネス、BOP ビジネスの話、非常に勉強になりました。」「とても視野を広げられるよいものでした。」という感想があった。「会場内の音楽、照明等」が次に多く１８％であった。「休憩中の音楽やオープニングムービーなど統一感あり良かった。」などの感想が寄せられるなど、全体的に高評価であった。

・一方で、「高校生の部と大学生の部に分けていいのでは。もしくは分野別。(ex：アプリ、農業、飲食)」という意見も寄せられた。

「茨城県学生ビジネスプランコンテスト２０１９」

ダイドードリンコ賞
ドリンク1年分

JETRO
日本貿易振興機構(ジェトロ)
学生ビジネスプランコンテスト
参加のみなさまへ
目指せBorn Global！
一歩踏み出す挑戦を！
2019年11月30日
日本貿易振興機構（ジェトロ）茨城貿易情報
所長　木ノ本知弘
Email Tomohiro_Kinomoto@jetro.go.j

茨城大学長賞
¥200,000

茨城県学生ビジネスプランコンテスト2019　最終審査結果一覧

	プランタイトル	お名前	所属
最優秀賞 茨城大学長賞	ぬいぐるみレンジャー　～子どもたちを守れ！！～	堀口　心寧 他３名	茨城キリスト教学園中学校高等学校　２年
優秀賞 常陽銀行賞	「ＪＲ水郡線での観光列車提案と高校生ベンチャーが提案する茨城美食ツアーによる県北活性化計画」 ～ＩＢＡＲＡＫＩ食美（たび）～	泉　　紅音 他２名	茨城県立常陸大宮高等学校　3年 （HIOKOホールディングス株式会社）
優秀賞 筑波銀行賞	「農家と若者を結びつける事業承継アグリビジネスプロジェクト」 ～高校生株式会社が提案する地域の農業と観光を結ぶビジネスモデルづくり～	後藤　　翔 他１名	茨城県立常陸大宮高等学校　3年 （HIOKOホールディングス株式会社）
優秀賞 東京海上日動賞 ダイドードリンコ賞 （オーディエンス賞）	危険の情報収集・マッピングアプリ「災害用伝言版アプリ」	田中　柚希	茨城県立古河中等教育学校 ２年（高校２年）
優秀賞 茨城新聞社賞	いばアグリ　　―茨城の農業生産者を応援するしくみの展開	佐々木　幹太	茨城大学　2年
優秀賞 日刊工業新聞社賞	お出かけの大革命：道との対話による共生社会実現	齋藤　希璃 他2名	筑波技術大学　1年
敢闘賞	「地元ゴルフ場を活用したサスティナブル観光ビジネスによる地域活性化」 ～高校生株式会社が提案する複合型観光地プラン～	南　隆太郎 他１名	茨城県立常陸大宮高等学校　3年 （HIOKOホールディングス株式会社）
	食品ロス600万トンの受け皿になるレストラン	瀧川　夏璃	東洋大附属牛久高等学校　2年

資料 11

「茨城県学生ビジネスプランコンテスト２０１９」
フォローアップ・ミーティング　１２月２１日実施報告

実　　施　　日	令和元年１２月２１日（土）　　天気：晴れ
時　　間	１４：００ ～ １６：００
場　　所	茨城大学社会連携センター
司　　会	社会連携センター長　西野　由希子
アドバイザー	林　雄一（公益財団法人茨城県中小企業振興公社コーディネーター） 桐原　武文（社会連携センター講師） 赤岩　正樹（研究・産学官連携機構特命教授） 倉田　稔之（社会連携センターコーディネーター）
参　加　者　数	７名 （高校生：５名、引率の先生：２名）
アンケート回収数	７部
資料準備部数	１０部

【実施した効果や今後の対応について】

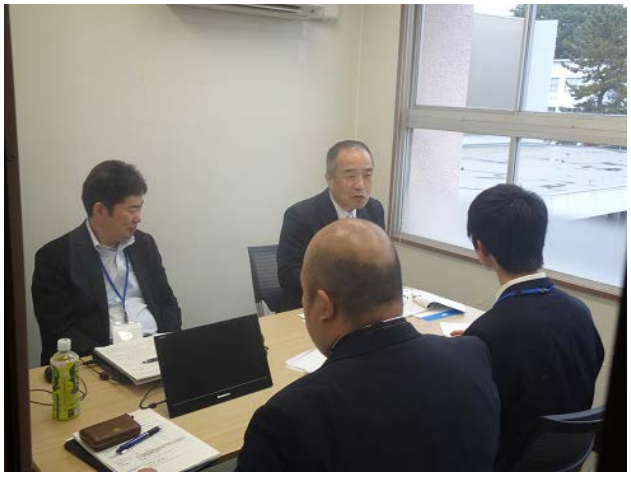
・フォローアップ・ミーティングの企画に対して「非常に満足」が 86%、「満足」が 14%であり、参加者全員から高評価を得ることができた。参加者からは「審査会後も茨城大学で担当の先生方に直接ご指導いただける機会に感謝です。本当にありがとうございました。他校の生徒さんと交流できたのも良かったです。」「自分達が気づかなさそうな所をアドバイスしてもらって、また視野が広がった。」などの感想が寄せられるなど、参加者自身が作成したプランに対し専門家から直接アドバイスを得られたことと、同世代の他のグループの人たちと交流や情報を交換できたことが高評価につながったと考えられる。

・今年度中に開催した「いばらき 10,000 社プロジェクト事業」に関するイベントの中で、全てのイベントに参加した方１名、起業セミナー以外の３つのイベントに参加した方は３名、個別相談以外の３つのイベントに参加した方は１名、ビジネスプランコンテストとフォローアップ・ミーティングの２つのイベントに参加した方は２名であった。全てのイベントに参加した１名からは、「自分の身になる話ばかりだったのでまた機会があれば参加したいです。」という感想が寄せられるなど、イベントから創業に対する知見を深めてもらうことができた。

「茨城県学生ビジネスプランコンテスト２０１９　フォローアップ・ミーティング」

開会式

待ち時間



フォローアップ

資料 12

茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会
『農業をめぐる「技術革新(イノベーション)」と茨城の地域活性化』実施報告

実施日	令和元年 11 月 5 日（火）　　天気：晴れ
時間	１３：３０ ～ １６：３０
場所	ホテルテラスザガーデン水戸　４階　シルバースクリーン
司会	農学部教授　安江　健（社会連携センター副センター長）
講演講師	農学部教授　小松﨑将一、農学部教授　岡山　毅
パネルディスカッション講師	農学部教授　小松﨑将一 農学部教授　岡山　毅 加藤百合子氏　株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役 三浦　綾佳氏　株式会社ドロップ代表取締役 山田　晃太郎氏　石岡市有機農家
パネルディスカッション進行	社会連携センター副センター長　安江　健
参加者数	１０６名 （一般：７９名、学内２７名）
アンケート回収数	４７
資料準備部数	１３０部

【実施した効果や今後の対応について】

・終了後に回収したアンケートでは、「非常に満足」「満足」という方が９０％で、「正解がないからこそ色々な視点からの意見を聞きながら自分でも考えを巡らせられ面白い講演会だった。」「技術革新について多角的に話を聞く事ができて大変ありがたかった。特にスマート農業の話に関心を持った。(閉鎖的な生産者に導入してもらうための課題解決が大切)」「農業に関する多様な取組み・実践の話をいただき、大いに参考になった。」などの意見があった。

・参加の起因としては、「関係者・知人からの情報提供・紹介」５４％、「茨城大学、社会連携センターHP」１２％、「メールマガジン、Facebook などの SNS」８％、「講演会のポスター・チラシを見て」６％だった。

・大学の企画・講演会等への期待については、SDGs についての関心が目を引いた。これらを貴重な意見として、今後の参考にしていきたい。具体的には、「SDGs の取組み・具体的な展開についての講演」「SDGs の示す未来の可能性を議論、検討」「SDGs に関して学部を越えた講演会やディスカッション。また、フロアを交えた会など様々な分野の方々が話し合える場があればと思う。」などが挙げられた。また、「スマート農業も含め、農業・地域活性化につながる講演」「ロボット・ドローン・AI のさらなる活用をテーマにお願いしたい。」「将来の農業を語る会」「農業ツーリズム」「生態系保全と害獣対策」「医療関係」といったテーマもあり、最近のトピックについては様々な研究分野の企画への期待が高いことが見て取れた。

茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会
『農業をめぐる「技術革新(イノベーション)」と茨城の地域活性化』

入場無料
どなたでもご参加いただけます

茨城大学・茨城県・茨城産業会議 連携講演会

農業をめぐる「技術革新（イノベーション）」と茨城の地域活性化

近年は農業の分野においてもAI、ICT、IoTといった技術を活用した生産場面での「技術革新」が見られるようになりました。これらの技術をスマートアグリとして統合化する過程では、究極の複雑系である農業生態系を読み解く道具として活用することも可能と考えられます。本連携講演会では、茨城大学農学部教員からの基調講演とともに、農家や企業の方を交えてのパネルディスカッションを通して、農業をめぐる「技術革新」の現状と近未来を感じていただければと思います。

基調講演◉小松﨑 将一 氏（茨城大学農学部教授）
地域を元気にする農業を目指して

基調講演◉岡山 毅 氏（茨城大学農学部教授）
「技術革新（イノベーション）」によるスマートアグリの実現

令和元年
11月5日（火） 13:30～16:30

ホテルテラスザガーデン水戸
〒310-0015 茨城県水戸市宮町１丁目 7-20
Tel.029-300-2500

主催◉茨城大学・茨城県・茨城産業会議
後援◉茨城県農業協同組合中央会

■プログラム

13:30	開会　あいさつ　三村 信男 茨城大学長
13:40	**第1部　基調講演** 「地域を元気にする農業を目指して」 「技術革新(イノベーション)によるスマートアグリの実現」
	休憩
15:00	**第2部　パネルディスカッション** ●パネリスト 加藤 百合子 氏（株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役） 三浦 綾佳 氏（株式会社ドロップ代表取締役） 16:30　山田 晃太郎 氏（石岡市有機農家）

お問い合わせ、お申し込み
事務局◉茨城大学 研究・社会連携部社会連携課
Tel.029-228-8585
mail：syaren-apply@ml.ibaraki.ac.jp
https://www.scc.ibaraki.ac.jp

茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center
〒310-8512茨城県水戸市文京2-1-1

プログラム

13:00	開場
13:30	開会　あいさつ　三村 信男 茨城大学長
⋮	**第1部　基調講演**
	「地域を元気にする農業を目指して」小松﨑 将一 氏（茨城大学農学部教授）
14:45	「技術革新（イノベーション）によるスマートアグリの実現」岡山 毅 氏（茨城大学農学部教授）
	休憩
15:00	**第2部　パネルディスカッション**
⋮	**●パネリスト**
	加藤 百合子 氏（株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役）
	三浦 綾佳 氏（株式会社ドロップ代表取締役）
16:30	山田 晃太郎 氏（石岡市有機農家）

講師プロフィール

小松﨑 将一氏
茨城大学農学部教授

専門は農業環境工学・農作業学で、「農耕地の持続的利用にむけた耕地生態系の最適管理システム」について、その管理手法の開発と評価を行ない、確立された技術の農家への普及を行なっている。著書として「アグロエコロジーの魅力―現代的な地域資源の高度利用」など多数。日本農作業学会長、茨城県有機農業推進会議委員長、茨城県農林水産部日本型直接支払制度推進委員会委員、茨城大学農学部附属国際フィールド農学センター長。

岡山 毅氏
茨城大学農学部教授

専門は農業環境工学・農業情報工学で、「農学分野における三次元情報の取得と活用方法」について研究を行っている。現在、茨城大学農学部附属国際フィールド農学センターのヴァーチャルリアリティー化を推進中。著書として「生物生産工学概論（朝倉書店）」や「太陽光植物工場の新展開（養賢堂）」など。

加藤 百合子氏
株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役

東京大学農学部で農業システムの研究に携わる。英国Cranfield University, Precision Farmingの分野で修士号を取得。NASAのプロジェクトに参画し、帰国後はキヤノン（株）に入社。その後、結婚を機に退社し静岡に移住。産業用機械の研究開発に従事した後、2009年にエムスクエア・ラボを創業。2012年青果流通を変える「ベジプロバイダー事業」で日本政策投資銀行第1回女性新ビジネスプランコンペティション大賞受賞。食料・農業・農村政策審議委員、茨城県農政審議会委員、日本農業ロボット協会会長。

三浦 綾佳氏
株式会社ドロップ代表取締役

広島県生まれ。栄養士、日本野菜ソムリエ協会認定・野菜ソムリエプロ。アパレル会社・イベント会社を経て、2013年、夫とともに広告代理店を起業。その後、糖度の高いトマトを作る農法・アイメックに出会い、2015年、水戸に移住し、ドロップファームを開設。「ドロップファームの美容トマト®」として水戸近郊はもとより都内のデパートで販売している。女性が働きやすい農業を実践し、平成28年度「農業の未来をつくる女性活躍経営体100選」にも選定されている。

山田 晃太郎氏
石岡市有機農家

茨城大学農学部で農村環境の生態学を研究し、有機農業と出会う。農業系新聞社を退職後、恩師から紹介された笠間市のNPO法人「あしたを拓（ひら）く有機農業塾」での1年半の研修を経て、2017年に夫婦で新規就農。「NHK趣味の園芸やさいの時間」の人気コーナー「農家1年生山田さんの畑日記」に出演。多品目の季節野菜を育てるだけでなく、2児の子育ても夫婦で奮闘中。

お申し込みはホームページよりお願い致します。※申込〆切　令和元年10月23日（水）

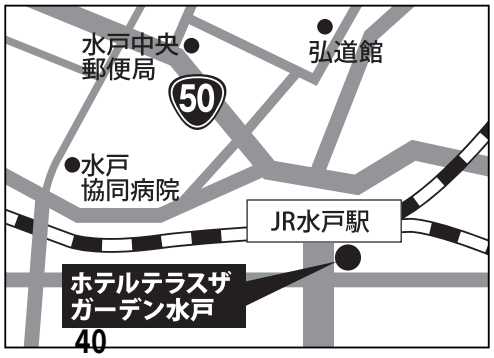
お申し込みはこちらから▶

https://www.scc.ibaraki.ac.jp/event/2010.html/

茨城大学社会連携センター
Ibaraki University Social Collaboration Center

Tel.029-228-8585

mail : syaren-apply@ml.ibaraki.ac.jp



●会場

ホテルテラスザガーデン水戸

〒310-0015

茨城県水戸市宮町1丁目7-20

Tel.029-300-2500

※
駐車台数に限りがございますので、公共交通機関のご利用にご協力をお願い致します。

資料　13

茨城大学
Ibaraki University

いばらき産学官金連携コーディネーター交流リーグ

意見交換会

日　時：　2019年7月25日（木）　13：30～15：30
会　場：　茨城大学社会連携センター研修室

【プログラム】

司会進行：
茨城大学社会連携センター副センター長
木　村　成　伸

13：30　挨拶
茨城大学理事・副学長（学術統括）　尾　﨑　久　記

13：40　趣旨説明
茨城大学社会連携センター長　西　野　由希子

13：45　本学からの提案と意見交換
「ＳＤＧｓの達成に向けた共創的研究プログラム」の研究開発プロジェクト組成に向けて
茨城大学研究・産学官連携機構　特命教授　赤　岩　正　樹

意見交換

15：30　閉会

「未来への懸け橋　学びの創造プロジェクト　コンソーシアム」

いばらき子ども大学

資料　14

学校の枠を超えた、新しいカタチの学びの場、
それが「いばらき子ども大学」です。

小学4・5・6年生の大学生を募集します！

【　募　　集　　要　　項　】

1　募集締切　2019年5月17日（金）必着
2　募集対象　小学4年生～小学6年生
3　募集人数　120人（定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。）
4　参 加 費　8,000円（運営費,7回分授業料等）
5　応募方法　QRコードによる申し込み又は
ハガキに下記内容を記入の上,事務局までお申し込み下さい。
※サークル活動の詳細につきましては入学通知の際にお知らせします。

①氏名（ふりがな）　②性別　③学校名・学年　④保護者名　⑤郵便番号・住所　⑥電話番号
【宛先】〒310-0034　茨城県水戸市緑町3丁目5−35
NPO法人　ひと・まちねっとわーく　いばらき子ども大学係　※はがきの申込みに限り兄弟姉妹のみ連名可

6　そ の 他　※入学の可否は,2019年5月30日（木）迄に入学通知の郵送にてお知らせいたします。
※申込み時にいただいた個人情報は,本事業のみ使用します。
※お子様の安全を守るため,保護者の方の送迎が必要です。

2019年度いばらき子ども大学事業「宿泊子ども大学」のお知らせ

英語活動・体験活動をメインにした宿泊学習を予定しています。
・期日　2019年12月26日（木）～28日（土）
・場所　茨城県立白浜少年自然の家
※詳細については後日お知らせします。

こちらのQRコードから申込みフォームにお進みください。

問い合わせ先

いばらき子ども大学県央キャンパス事務局
【NPO法人　ひと・まちねっとわーく　担当:佐藤・後藤】
TEL:029-233-5200 FAX:029-246-6587
E-mail:kodomo-u@hito-machi.net

他キャンパスの情報や「いばらき子ども大学」のことを知りたい時は,こちらのQRコードまたはURLから確認できます
http://hito-machi.net/kodomous/

Facebookもチェック
いばらき子ども大学　検索

【主　催】　いばらき子ども大学実行委員会　茨城県教育委員会　茨城大学社会連携センター

県央キャンパス ～知性と感性のスイッチON～

子どもたちの持っている宝物(豊かな知性と感性)が輝くことを願って、授業を設定しました。
(科学・探求・創造・表現・感性・思考)

開校式特別授業（茨城大学会場）

1 6月8日(土) 14:00▼15:30 病気の「ひみつ」

なぜ病気になるのだろうか?病気はどうなおすのだろうか?病気にならないためにはどうすればよいだろうか?病気から,体の不思議・命の大切さを学びましょう。

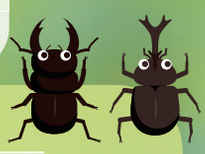
講師:永井 秀雄 先生（茨城県立中央病院名誉院長）
場所:茨城大学講堂

2 6月29日(土) 9:30▼12:00 人が想像できることは必ず実現できる～プラスチックで病気を治す!?～

身の回りにあるプラスチックについて勉強するとともに,病院で使われているプラスチックについても紹介します。プラスチックを使った実験も行います。想像力を膨らませ,どんなプラスチックがあれば病気が治せるかについて一緒に考えてみましょう。

講師:荏原 充宏 先生（国立研究開発法人 物質・材料研究機構）
場所:茨城大学人文社会科学部講義棟10番教室
持ち物:100円ショップで売っているプラスチックでできているもの1つ。
（形状は問いません。）

3 7月20日(土) 9:30▼12:00 「昆虫の不思議」



虫は地球上でもっとも種類の多い生物で,その形や生活はとても多様です。授業では昆虫の多様な形や生活について紹介し,みなさんと昆虫の不思議について考えます。

講師:岸本 亨 先生（つくば国際大学医療保健学部保健栄養学科）
場所:茨城大学人文社会科学部講義棟10番教室

4 8月3日(土) 9:30▼12:00 これで君も映画監督!～夢と未来を映像にしよう～

グループで短いストーリーを考え,スマホやタブレットでたくさんの写真を撮りアプリで動画へ編集。作成したショートムービーをYouTubeへアップしてみよう!

講師:県西ICT推進コンソーシアム（株）ユニゾンモバイルドコモショップ
下館店　場所:智学館中等教育学校 カフェテリア
持ち物:筆記用具,動きやすい服装

5 10月19日(土) 9:30▼12:00 あなたも,美しい日本語を話す「日本語美人」になろう!

「毎日使っている日本語は美しいかな?」って考えたことありますか?劇団「四季」で学んだ多くの事をみなさんに伝えます。言葉は心を伝えるひとつの貴重なツールです。あなたも日本語美人になろう!そして,その発音は歌にも大きく活かされます。きれいな日本語で声を合わせ,みんなで楽しく歌ってみよう!

講師:岡村 麻未 先生（元劇団「四季」所属,現SUNBEAM所属俳優,常磐短期大学他声楽講師）
鈴木 範之 先生（常磐短期大学准教授）
場所:茨城大学人文社会科学部講義棟10番教室

6 11月2日(土) 9:30▼12:00 「和」の音色～あなたは聞いたことがありますか～

古くから伝わる日本伝統の楽器（琴や琵琶・尺八等）が奏でる「和の世界」に浸る時間を創り出します。子どもたちが「伝統」と「創造」について少しでも考える機会となればと思います。和楽器演奏や塩ビ管での尺八づくりの体験もあります。

講師:尺八奏者 坂本 進（汐山）先生 他:和の音を伝えるグループ「奏（かなで）」
場所:茨城大学共通教育棟2号館10番教室

7 12月7日(土) 9:30▼12:00 「いのち」をめぐるワークショップ ー温暖化適応と防災の視点から考えるー

「いのち」とはなんでしょうか?もし災害が起きたらみなさんはどのように自分の「いのち」を守りますか?「答えがひとつ」という勉強の世界を脱して考えてみましょう。

講師:伊藤 哲司 先生（茨城大学地球変動適応科学研究機関(ICAS)機関長/人文社会科学部教授）
場所:茨城県歴史館講堂

県央キャンパス限定サークル活動

サークル①
mBotレースにチャレンジ!

プログラミングソフト（スクラッチ）で基本を学び,実際にロボットを動かしてmBotレースに挑戦します!第2回イケダ杯開催します!

講師:いばらき子どもプログラミング教室 講師

サークル②
パステルで心のいろを描いてみよう!パート2

パステル画のぬくもりとやさしさを伝えます。自分の思いを表現する楽しさを味わうワークショップ型授業です。最後に作品を額に入れて世界にひとつだけのパステル画の完成です。
【定員:30人】

講師:七字 純子 先生
（茨城美術展覧会会員・茨城女子短期兼任講師・パステル画家）

サークル③
考古学研究所へようこそ!

城里町にある遺跡発掘現場を訪れます。実際に発掘に携わっている先生から貴重な話が聞けます。実際に遺跡発掘を体験します。
【定員:30人】

講師:田中 裕 先生
（茨城大学人文社会科学部教授）
場所:いせきぴあ茨城（城里町）

サークル④
インプロってなあに?

Improvisation(インプロヴィゼーション)。「即興」の意味。演劇・音楽・アートなど芸術分野における表現手法のひとつ。台本なしで「その場で創作する」こと。思考と創作が同時に行われます。楽しみながら,発想力を豊かにし,コミュニケーション・スキル,などアップをさせよう!
【定員:40人】

講師:正保 春彦 先生
（茨城大学大学院教育学研究科学校臨床心理専攻教授）
場所:茨城大学茨苑会館

3キャンパス合同特別授業

子ども大学版
ミニ・ビブリオバトルに挑戦!!

県央・県南・鹿行キャンパス合同の特別授業です。3キャンパスの子ども大学生と交流しながら今話題の「知的書評合戦 ビブリオバトル」をとおして,「人を通して本を知る,本を通して人を知る」ことを体験しましょう。午後には図書館ツアーを行います。※「知的書評合戦 ビブリオバトル」は誰でも(小学生から大人まで)開催できる本の紹介コミュニケーションゲームです。
持ち物:あなたが読んで面白いと思った本 1冊 筆記用具 【定員:20人】

講師:村上 信夫 先生
（茨城大学人文社会科学部 教授・放送作家）
場所:茨城大学水戸キャンパス 図書館

資料　15

令和２年１月 21 日
社会連携課

連携協定先との実務者間意見交換会実施報告書

日　時	令和２年１月 21 日（火）14:10～16:30　天気：晴れ ※13：30～14：00　キャンパスツアー（希望者のみ）
場　所	茨城大学社会連携センター３階　研修室　他
参加者数	４１名 （自治体参加者：２１名（自治体数：１３）、茨城大学：２０名）
進　行	茨城大学社会連携センター副センター長　渋谷敦司

【開会】

- 西野センター長より挨拶

【茨城大学の取り組みの紹介】

- 社会連携センターの取り組みについて（西野先生）

【意見交換会】３つの内容で４グループに分かれ、意見交換

・A-1：地域連携（ファシリテーター：渋谷副センター長）
・A-2：地域連携（ファシリテーター：西野センター長）
・B：研究・産学官連携　（ファシリテーター：木村副センター長）
・C：生涯学習・社会教育　（ファシリテーター：安江副センター長）

【まとめ】

※　別紙１を参照

【閉会】

- 西野センター長より挨拶

【アンケート】

・今回の意見交換会に関しては、「非常に満足」「満足」という方が 50%で、「自治体と大学、双方の意見交換ができる機会があまりないので大変有意義な時間だった。」「少人数での意見交換＋ファシリテーターの配置により、様々な意見を伺うことができ、勉強になった。」などの感想が、また、「普通」という方も 45%で、「市町村間の横のつながりを構築できる良い機会であった。」という感想が寄せられた。
・参考になった内容などについては、「市町村広域連携の可能性、大学の研究と市町村課

題のマッチング」「大学の先生方へのアプローチの方法（個別のアプローチ、連携センターを介して人材紹介を受ける、ＨＰでの紹介)」「他の自治体が大学に対してどう思っているのか、どのような連携をしているのか知ることができ、参考になった」などが挙げられた。

・今後、意見交換会でとりあげてほしい「テーマ」「題材」については、「マッチングフェア形式で先生たちの研究内容を紹介してもらえる機会」「茨大のこれまでの受託事業（自治体との）の実績とその後の効果」などが挙げられた。

・開催の方法・形式・時期などについては、「今回の方法はわかりやすかった。テーマが決まっているとなお良いと思う。(事前に決まっていれば担当職員が同席できる。)」「今のままで良い。時期も問題ないと感じる。」「意見交換を受けて来年度予算に反映することも想定されるため９～１０月頃に開催できればと思う。」などの意見が挙げられたが、「対応いただく先生の分野をばらけさせてほしかった。」といった意見もあった。

・茨城大学、社会連携センターへの意見、要望については、「自治体と大学の連携の発展で、大学を中心とした自治体と自治体の横の連携につながっていくとメリットを感じて連携自治体が増えるのではないかと思う。」「自治体の困り事に対し大学側から積極的にアプローチすることで、連携を拡大することは可能であるように感じた。」という意見があった。

キャンパスツアー

開会

開会挨拶

意見交換会Ａ－１

意見交換会Ａ－２

意見交換会Ｂ

意見交換Ｃ

ファシリテーターからのまとめＡ－１

ファシリテーターからのまとめＡ－２

ファシリテーターからのまとめＢ

ファシリテーターからのまとめＣ

別紙 1

2020/1/21　茨城大学と連携協定先自治体との意見交換会　ファシリテーターまとめ

グループ A-1　地域連携

大学・高校生による地方創生による総合戦略について、地方自治体の行政全般に関わる政策立案を大学との連携にてどういう事ができるのか、可能なのかという意見が出た。

大学生や高校生に地元意識を強める地方創生事業の一環として地元の高校生の参画を促し、大学と連携してどのような形で推進できるのかという意見があがった。

取り組みの例として、筑西市では本学の学生に地元有識者会議に参加してもらい、地元高校生の意識調査後、分析を行い、地方創生総合戦略の提言を行った。また、小美玉市での地域の魅力度発見プロジェクトということで地元の高校生に地域の魅力について働きかけるという事例もあった。

今後も大学、大学と高校生との連携、連携の延長線上に高校生による地域への政策立案に学生の参画を進めいていきたい。

また、個別具体的な政策課題、公共交通、男女参画、農業関連の取り組みがあがった。

これら政策課題について自治体との連携に必要な情報、大学の教授がどのような専門分野どのようなテーマだったら自治体と連携できるのか、なかなか自治体側に情報が伝わらないという意見があった。それについては、“研究者総覧”というデータベース項目がホームページにあるが、活用されにくく、なかなか使いにくいとの意見がある。

自治体と本学の学生をつなげる方法についても話題にあがったが、社会連携センターを活用していただくのがワンストップサービスで紹介する出発点であり、社会連携センターに相談していただき、大学側ももっとわかりやすく情報提供することで学生とつなげる事ができると思われる。

このように色々と活動は行ってきているが、これまでの活動などについて実績が伝わっていないことが多く、初めて聞いたという意見が有り、今後、実績含め大学側で様々な情報を提供する工夫が必要と改めて実感した。

グループ A-2　地域連携

事前に頂いていた質問項目をもとに意見交換を行ってきたが、各自治体がどのような取り組みをしているか、今後どのように取り組んでいくのかについて同じようなテーマや課題を考えていることがわかった。

今後の課題としている SDGs、データ活用に関わる勉強、国際交流、観光、などについて勉強するとしたら、一つの自治体だけでなく、関心のある連携協定先自治体に呼びかけて自治体が合同で講座を持つというものありうるかもしれないという話になった。

これからのしくみ作りについて意見を伺ったが、協定先自治体と大学がやっていることについても実際の成果、連携実績など情報共有をもっとしたい。お互いにわかることにより情報共有を行いやすく、今後の参考とすることができるし取り組みやすい。

場合によっては大学もしくは先生が間に入りながら同じ課題を持ちながら自治体同士をつなげることができるのか？という質問を受けたが、お互いに意見交換や課題共有する機会があることによって可能になるのではと思われるし、協定先同士、大学との間での情報連絡の蜜なとり方が求められている。

また、大学の先生方の関心事・研究・担当分野についてもっと情報がほしい。という意見があがった。

グループＢ　研究・産学官連携

自転車の利用について議論を行った。(那珂市での事例)

現在、自転車の利用というキーワードで議論を行った。本学と連携し、実際に行っているが、大学ともっと協力していけないか、という意見があった。もちろん、他自治体での取り組みなども伺いながら話を進めた。

実際、自転車というキーワードでソフト面・ハード面いろいろ切り口があるということを考えることができた。

大学で参加しているメンバーが工学部だったので技術系の意見が多かったというのもあるが、地域の技術的な所ではない方の意見も取り入れていくとまた違う意見がきけると思う。紹介事例として大洗町が那須町と行っているイベントが挙げられ、自転車で行くことによって地域活性化をお互いに促進することができている。

地域のプロモーションについても意見交換した。

大子町では本学と袋田の滝のプロモーションビデオを作成し好評であったが、更に良くしたいので、もっと学生の意見を取り入れたいとのこと。学生の意見は一つの資源となるというのを再確認した。学生の力、考えをうまくお伝えして活用していただくことができるのではないかと思う。

防災について大学との連携や工学都市システムのなどの連携についても話し合われた。

専門家によるハザードマップを活用した防災と被害想定に合わせた対策について、予算の関係もあるので、アプローチの方法を考え、例えば、防災センサーを作り、小さい協力からスタートしてはどうかなどの話があった。

自治体同士が共通の課題を同じプラットフォームにのせて共有し、同じ問題に取り組み、大学を介して課題に対して情報交換が行われる場が重要という意見があった。

グループＣ　社会教育・生涯学習

公民館での社会教育のあり方について、他の自治体での取り組みについて意見交換をした。

全国生涯学習系センター研究協議会などでも議題となり、全国的に問題となっている。対応としては、解決策はなかなか見いだせないが、1 年に 1 回情報交換、意見交換の場などに自ら参加することなどを紹介した。

本学では、社会連携センターで取り組んでいる“エコカレッジ”や“こども大学”があり、離れた世代が同じ時間を共有することなどの事例を担当より紹介した。

公民館をカルチャーセンターとしていけば社会教育ではないし、社会教育を全面に出すと難しく感じと集客が悪くなる。入り口は伝統行事などの身近なもの、ゴールは社会教育というふうにして、参加者自らが自分ごとに変えていくような形のテーマ設定が理想的なのではないかと思う。

資料　16

平成31年度　茨城大学社会連携センター顧問一覧

H31.4.1

所属	氏　名	任期
一般社団法人 村楽	東　大史	平成30年5月1日～ 平成32年3月31日
三菱UFJﾘｻｰﾁ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ株式会社　政策研究事業本部 公共経営・地域政策部	阿部　剛志	平成30年5月1日～ 平成32年3月31日
株式会社博報堂　ブランドデザイン×都市デザイン研究所	深谷　信介	平成30年5月1日～ 平成32年3月31日
株式会社電通デジタル サービスデザイングループ	加形　拓也	平成30年5月1日～ 平成32年3月31日
有限会社モーハウス	光畑 由佳	平成31年4月1日～ 平成32年3月31日

令和元年度　茨城大学社会連携センターアドバイザリーボード意見書
まとめ

資料　17

＜１＞　令和元年度社会連携センターの活動・取り組みについて

主に、資料Ⅴ「活動報告」１～６及び資料Ⅵ「年間予定」をご覧いただき、評価、ご助言、ご感想などをお願いいたします。

①全体について

・自治体との連携は活発に行われたようです。水戸、日立を中心に活動範囲はその近隣エリアに広がり、那珂市と連携協定を結ぶなどつながりは広がりを見せています。この流れを引き継ぎ、活動エリアの拡大を期待します。活動内容については業界に偏りがあったように感じます。産業界全体を俯瞰した取り組みを期待します。

・当センターの活動については、多岐にわたる積極的な取り組みがなされており、大いに評価できるものであります。特に人口減少、雇用確保など地方を取り巻く環境が非常に厳しくなりつつあるなかで、産学官連携による取り組みの重要性が益々増してきており、大学の知見、若い学生の柔軟な発想によるアイデア発現により、更なる成果が期待できるものと考えております。

・茨城大学と社会のプラットホーム機能に加えて，茨城大学ならではの能動的な社会連携の取組が促進された１年間であったと考える。
　特に，リカレント教育については，企業・自治体との連携により大学の知的資源をより地域に還元するとともに，多文化共生に係る講座の開設（R2～）に向けた仕掛けなど，社会のニーズと合致した取組みが推進された。

・社会連携センターの活動は多岐に渡り、大学と地域と結びつける活動となっていると考えます。戦略的地域連携プロジェクト・学生地域参画プロジェクトは件数的にも定着してしてきていますが、内容的には、スタート時と比べて充実した内容になってきていると感じています。要するに主体的に地域の問題を捉え、活動が進められていると感じております。その結果として、地域自治体等から相談、依頼が来ていると考えます。COC事業で目指して来た”地域と向き合い、地域の未来づくりに参画できる人材の育成”を更に進めて頂きたいと願います。

・県央、県南、県北にキャンパスを持つ大学として、定着しつつある事業及び新規事業等多岐にわたり活動しており、内容も茨城ならではの特徴あるものが数多くあると感じました。

・数多くの活動を取り組むことは大変ご苦労もあったと思いますが、成果の積み上げも大きかったと思います。
はばたく！茨大生の開催中止は残念でしたが、ぜひ次につながる形を期待しています。

②各事業について

【リカレント教育プログラムについて】

・コースも３つあり力を入れていることがうかがえる。オープンコースのメニューについてはまだ探っている段階だと思うが、いろいろなニーズがあると思う。幅広くカバーするのか、特色を出して絞り込むのか考え方次第だと思う。カスタムコースは順調な滑り出しだと思う。外国人材を採用している企業も増えつつあるので、外国人社員を対象にした教育の提供というのもあるのではないだろうか。

・リカレント教育プログラムについて、新たにカスタムコースを開設するなど、内容の充実に取組まれておりますが、年金問題でも話題になった金融知識の普及にも一層取り組んでいくべきと考えます。特に金融リテラシー、金融ジェロントロジーといったテーマについて焦点を当てていってはいかがでしょうか（含む学生向け金融リテラシー）。

・複数回にわたりテレビ等のメディアに取り上げられるなど，社会人の学び直しの必要性について，県内企業等への周知が促進された。
　引き続き取組を推進するとともに，今後は，茨城大学ならではとPRできる，県民のキャリアアップやセカンドキャリアの形成に資する専門性の高い講座の設置を期待したい。

・リカレント教育プログラムには、それぞれ特徴のある3つのコースがあり、向学心のある社会人に対して実情に合わせ幅広く学べるチャンスを与えられるものと考えます。カスタムコースにつきましては、今後、色々な要望が出てくるものと期待します。

・カスタムコースの充実等選択肢を多くすることにより、目的とする地方創生への可能性が高められたと思う。

・那珂市でのリカレント教育プログラム実施はとても良いと思います。ぜひ他の自治体にも広げてほしいです。

【自治体・地域等との連携】

・戦略的地域連携プロジェクト、学生地域参画プロジェクトはとても良い取り組みで、活動が根付いてきているように感じる。今後もぜひ継続していただきたい。いばらき創業１００００社プロジェクトでは、ビジネスコンテストへの茨大生の参加が少ない。まずは足元からの参加を増やすべきだと思う。

・学生の地域活動支援については「はばたく茨大生」、「いばらき創業10,000社プロジェクト」など様々な自治体・地域などとの連携が進められております。引き続き取り組み項目・内容の充実に努められるよう期待しております。

・戦略的地域連携プロジェクトや令和元年台風１９号災害へのボランティア派遣・研究グループの設置等，多くの機会で自治体・地域との連携が促進された。
　これらの具体的成果を報告書のみならず，意見交換会等で共有することにより，更に自治体との連携事業・共同研究が持続的になっていくものと考える。

・連携協定先との意見交換会実施報告より、各自治体には、個別の課題と共通の課題があることが分かります。個別の課題については、専門性が問われるテーマであり、テーマごとにプロジェクトを組んで進めていくことが良いと考えます。共通のテーマに関しては、社会連携センターがネットワーク作りを推進して、課題解決することが良いと考えます。そのように各自治体からも期待されていると感じました。

・各種連携等が一過性のものでなく、学部、学科、ゼミ、サークル等の継続的テーマとなることを期待します。

・大学と自治体の連携もそうですが、自治体間の情報共有のハブ機能を大学が持つことはとても良いと思います。

【企業・産業界との連携】

・１９年度は農業がテーマだったのか、いばらき塾も歴史や人物、食がテーマで、ものづくり企業・産業界との交流は乏しかったのではないか。１次・２次・３次産業万遍なくは難しいかもしれないが、そのあたりを意識した企画・テーマづくりをした方が良いと思った。

・地元卒業生の東京等大都市への流出が大きな問題となっております。「COCプラス事業」としてのキャリアセンターとの連携によるインターンシップの受け入れ、茨大生の地元就職に向けたプログラムの充実を企業等との連携・交流・協働により、積極的に進めていくべきと考えます。

・経営者協会の「いばらき塾」への協力や三者連携講演会の開催により，産業界との連携が促進された。
「はばたく！茨大生」等の学生地域活動発表会の企業への更なる周知により，iOPクオーターにおける学生と企業の連携活動や，県内就職の促進に繋がるものと考える。

・今年度の連携事業は、農業分野での活動であり、活動の中心は、農学部でありますが、色々な学部も参画できるテーマと考えます。このような取り組みがさらに展開され、茨城大学の役割が発揮され、地域の活性化に繋がることを期待します。

・農産物とともに工業製品出荷額も上位に位置する茨城県において、食料品等以外の製造業との連携が少なく感じられる。

・上記と同じく、企業の中でも中小零細企業は単独で大学との連携は難しいので、ぜひ中小零細企業同士のハブ機能も持っていただけると（すべて個別に大学が対応することは難しいので）、より広がりがあると思います。

③その他

・台風１９号災害に対する全学的な対応は素晴らしいと思う。地震や風水害の被害は今後も増えることが予想される。地域に根ざした大学として、地域を守り、役立つ活動を期待します。

・地球温暖化の影響による災害被害の影響が従来に増し大きな課題となっております。そうしたなかで学長を座長とする台風19号災害支援チームの立ち上げ、学生・教職員によるボランティア派遣をスピード感をもって対応されたことは大変有意義であったと思います。引き続き大学の知見を基にしたBCPプランなどの調査・研究の展開も含め、地域貢献に努めていただきたい。

・戦略的地域連携プロジェクト、学生地域参画プロジェクト報告書により、地域の問題を真摯に捉え様々な活動が行われていることを改めて確認できました。その中で、児童生徒支援等の活動は、茨城大学が一つの教育者養成機関であることを考えると、一つの大きなテーマと考えます。人は、誰でも人のために何かをする、社会に貢献したいと気持ち持っていると思います。しかし、どういう方法が良いかが様々であり、難しいところであると感じています。面倒なことではありますが、人の持ち味、・興味等を捉えて育てていくことができれば、良い社会人に成長できると考えます。また、、地方の空き家・使われなくなった施設の利用については、もっと積極的に関わっても良いのではないかと考えます。良い活動がスタートしてきていると感じました。

・情報発信も積極的に取り組んでおられますが、引き続き積極的な発信に期待します。メディア発信に力を入れているところとの協業も良いかもしれません（例えば茨城ロボッツなど）。

＜２＞ 令和２年度の社会連携センターの方向性について

主に、資料V「活動報告」７をご覧いただき、評価、ご助言、ご感想などをお願いいたします。

・引き続き幅広く、精力的な活動をされていることを評価します。新型コロナウイルスで２月下旬から中止となる活動がありました。新年度以降も予定通りスタートできないことも想定され、いろいろな企画が団子状態になることも予想されます。非常事態でもあるので２０年度独自の枠組みを考えてもいいかもしれません。

・３つの取り組み項目を柱とした当センターの方向性については、妥当であると考えます。但し、リカレント教育については、前述した通り、金融リテラシー、ジェロントロジーなど取り組み項目の一層の充実を図っていただきたいと考えます。

・社会連携センターの取組、そして、方向性については、良いと考えます。

①この地域においては、雇用の流動化加速よりも、急速な技術革新や市場の変化への対応に寄与することに重点を置いてほしい。
②③昨年の水害時同様、新型コロナウィルス沈静化、影響軽減に貢献する活動を取り入れてほしい。

・多岐にわたって様々な取り組みを同時多発的に行う手法は、社会連携センターの取り組みを短期的に拡大して成果を上げるためにはとても有効ですし、評価に値すると思います。が、少し大変過ぎるのではないかと心配もしてしまいます。短期的な成果を目指すものと、じっくり腰を据えて取り組みを継続するものと、取捨選択も必要かもしれません。

＜３＞ 社会連携センターの今後の活動、大学および社会の中で果たすべき役割、そのために必要なことなどにつきまして、ご助言、ご感想をいただけるとありがたいです。そのほか、ご自由にお書き下さい。

・１９年度は工業系の活動が少ないように感じました。

・新型コロナウイルスによる様々な経済活動の影響から当事業についても今年度は一部制約を余儀なくされておりますが、次年度の積極展開に向け引き続きご尽力をお願いいたします。

・各学部ベースで行っている社会連携の取組（人文社会科学部自治体円卓会議等）について，センターの機能として情報を集約化してほしい。

・先ずはCoC事業で「茨城学」を学び、はじめは戸惑う学生さん、先生方もいたかもしれませんが、それが定着し、なんとなく地方（茨城）が気になり出し、地方の問題に関わるようになり、自ら問題解決に取り組み始めている様子が報告書を通して伝わってきます。このことは、まさしく大学が狙ってきている”アクティブラーニング”に繋がってきていることと関係者の皆様の努力に対して改めて敬意を表します。一つ気になることは、このようなプログラムを通して学んだ学生の中で地元（茨城県内）に就職した人は、以前より増えているかということです。その意味では。学生地域参画プロジェクト”team 結”のその後の活動が気になるところです

・地域の子供たちに、茨大生の輝いている姿を見せ、茨大に入りたいと思われること、同時に、学生の学びの場となるとともに、企業等の生産性向上の一助となることを期待します。

・それぞれの取り組みも、それを全体として見ても、とても充実していて良いと思います。ぜひこの流れが持続的に続き、かつ各々が自律的に回るような方向に進んでいけば、地域の核となる大学の役割をこれからも果たせると思います。期待しています。

令和元年度　茨城大学社会連携センターアドバイザリーボード名簿

平成31年4月1日

	氏名	会社名	役職名	任期	適用条項
1	池田　正明	茨城県	政策企画部計画推進課長	H31.4.1　～　R2.3.31	内規 第3条（1）
2	加藤木　克也	株式会社　三友製作所	代表取締役社長	H30.5.1　～　R2.3.31	内規 第3条（1）
3	玄蕃　由美子	株式会社　日刊工業新聞社	東京支社長 兼日本産業人クラブ連合会理事長 兼東京産業人クラブ常務理事	H30.5.1　～　R2.3.31	内規 第3条（1）
4	小瀧　理	助川電気工業株式会社	代表取締役社長	H30.5.1　～　R2.3.31	内規 第3条（1）
5	茅根　務	株式会社　常陽産業研究所	取締役社長	H31.4.1　～　R2.3.31	内規 第3条（1）
6	横田　修一	有限会社　横田農場	代表取締役	H30.5.1　～　R2.3.31	内規 第3条（1）